

平成25年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

九州No.1の教育拠点を 目指して

本学園の運営につきましては、日頃から格別のご理解とご支援をいただき深く感謝申し上げます。

今日、学校を取り巻く経営環境は、少子化の進行をはじめとしていっそう厳しいものとなっています。多くの私学が入学者確保に苦慮し、種々の対策を講じてはいるものの、目立たしい効果は容易にはあげられず、経営状況の悪化は加速していると言われています。このような厳しさの中でも、教育界に対しては、『我が国の未来形成に貢献し、社会をリード』することの重要な使命が課せられているところです。

本学園では、「経営環境は急激に変化し、一方で学園への期待は急速に高まり、その機能・役割には格段の先進性と質的向上が求められる」との予測のもとに、平成10年から15年間にわたって学校改革を継続してきました。この間、6次の経営計画策定とその事後評価・見直しを重ねながら、①教育力発揮、②研究高度化、③就職力強化、④募集力強化、⑤経営・財務力強化の5つの総合的目標を掲げ、関係の諸施策を実行してまいりました。

近年を振り返りますと、①教育力発揮については、国の支援事業等において、様々な教育改革の取組が「計画性が高く、その成果が期待できる」等の評価を受け、数多く選定・採択(平成20年以降12件の採択)されたこと等、相応の評価ができます。②研究高度化については、日本学術振興会科学研究費助成事業に過年度3カ年で108件の研究事業が採択(当該期間前3カ年の1.6倍)される等、飛躍的な進展が確認できます。③就職力強化については、就職・就職内定率共に全国・福岡県いずれもの平均水準を上回って推移(本学就職内定率は大学学部97.2%、大学院95.7%、短大96.9%、高校100%)しています。

このような取組成果等について、外部からもご評価・ご期待をいただき、大学、短大及び附属高校の3設置校全てが入学者を拡大(大学は8カ年連続で志願者増、附高は県下で最大数の志願者確保)させ、安定的に入学者を確保し、④募集力の充実が確認されます。様々な取組が総合的に功を奏すことによって、⑤経営・財務力は、毎年増強されているところです。

もとより、私たちはこの現状に満足することなく、いっそうの改革・改善を推し進め、社会変革への適応力の高い、強い人材の育成によって、地域社会さらには国際社会に貢献し得る「九州No.1の教育拠点」を目指してまいります。

この教育研究活動報告書は、学生・生徒・保護者の皆様、そして学校運営にご支援をいただく企業・地域の皆様に、私どもの教育・研究・経営及び財務の諸活動の取組とその成果について具にご説明し、いっそう本学園をご活用いただくことを目的としています。

おって、この報告書を通じた関係の皆様と本学園双方向のやりとりは、私どもが諸活動をさらに磨き高めるためには欠くことができない貴重なものであると存じます。どうか忌憚のないご意見を賜りますようお願いいたします。

平成26年6月1日

福岡工業大学／福岡工業大学短期大学部

学 長 下村 輝夫

INDEX

学長メッセージ 01

学園概要

学校法人の概要 03

キャンパス概要 05

中期経営計画[マスタープラン]の概要 07

平成25年度ハイライト 09

教育活動

大学

教育の質保証に向けた体制づくり 23

工学部 25

情報工学部 27

社会環境学部 29

初年次・補習教育 30

短大部 31

グローバル化への対応 33

学生支援

就職支援 35

学生生活支援 37

課外活動支援 38

研究活動 39

地域貢献 41

施設・設備 43

データ集 45

建学の綱領

一 学徒の品性を陶冶し真の国民としての教養を啓培する

一 宇宙の真理を探求しこれを実生活に応用して社会に貢献する

一 人類至高の精神自由平和信愛を基調として世界に雄飛する人材を育成する

学校法人の概要

大学開学50周年、国・社会の人材ニーズに応え、支えられて成長・発展してきました。

沿革

電気通信技術の普及・振興に向けて -高校、短大、大学3校を開設-

- 昭和29年 福岡高等無線電信学校を創設
- 昭和33年 学校法人福岡電波学園福岡電波高等学校を開設
- 昭和35年 福岡電子工業短期大学(1学科)を開設
- 昭和38年 福岡電波学園電子工業大学工学部(2学科)を開設



建設中の校舎(昭和37年頃)

電子技術立国による高度経済成長に向けて -工学系総合大学へ-

- 昭和41年 大学の名称を福岡工業大学に変更
大学の学科を増設、6学科体制に
短大の名称を福岡工業短期大学に変更
- 昭和48年 学校法人の名称を学校法人福岡工業大学に変更
- 昭和49年 高校の名称を福岡工業大学付属高等学校に変更
- 昭和58年 エレクトロニクス研究所開設
- 昭和63年 言語情報工学研究所開設
- 平成 2年 大学に情報工学科を開設



校舎の様子(昭和41年頃)

高度情報化・工業技術専門化に向けて -情報科学分野の拡充と大学院開設による教育・研究の高度化-

- 平成 5年 大学院工学研究科修士課程開設
- 平成 7年 短大を2学科に改組転換。情報科学系科目を大幅拡充
- 平成 9年 大学に情報工学部開設、2学部8学科体制に
- 平成10年 言語情報工学研究所を情報科学研究所に発展改称
- 平成11年 大学院工学研究科博士後期課程開設



新分野拡充のために新校舎建築(平成5年頃)

工業技術発展と環境の調和した持続可能社会に向けて -文系環境学部の新設で文理融合型大学へ-

- 平成13年 大学に社会環境学部(文系)開設
高校の名称を福岡工業大学附属城東高等学校に変更
- 平成14年 短大の名称を福岡工業大学短期大学部に変更
- 平成16年 校舎大規模改築計画が完了(現在のキャンパス基本形が完成)
- 平成17年 大学に生命環境科学科開設
環境科学研究所開設
- 平成19年 大学院社会環境学研究科修士課程開設
- 平成25年 大学開学50周年



環境設備を備えた
新型キャンパスへ転換(平成17年頃)

設置校



福岡工業大学

工学部	情報工学部	社会環境学部	大学院
電子情報工学科 生命環境科学科 知能機械工学科 電気工学科	情報工学科 情報通信工学科 情報システム工学科 システムマネジメント学科	社会環境学科	工学研究科 社会環境学研究科



福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科



福岡工業大学附属城東高等学校

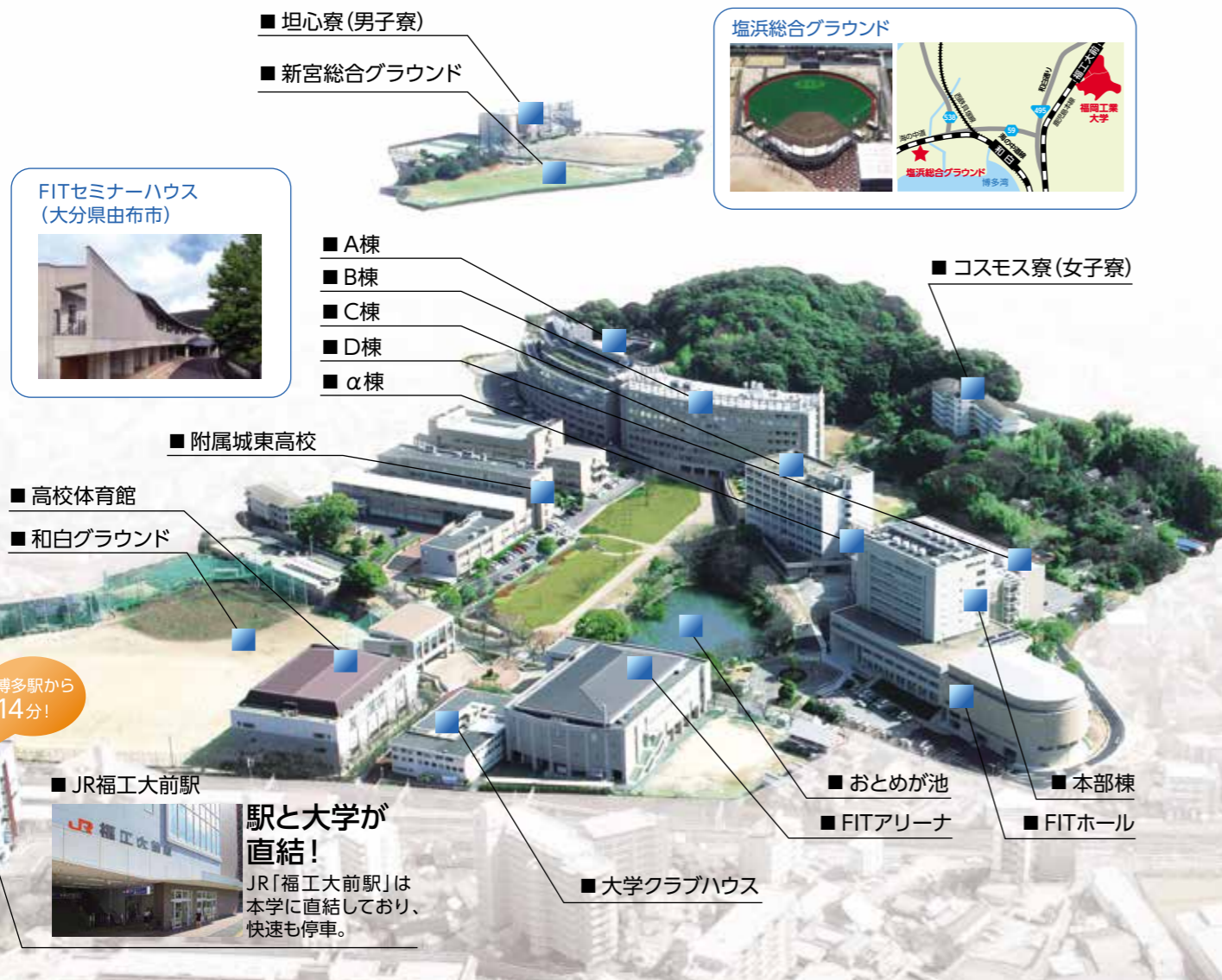
普通科	工業に関する学科
I類特別選抜 I類 II類特別選抜 II類 III類	電気科・電子情報科 スペシャリストコース 電気科 電子情報科

設置学科概要



キャンパス概要

キャンパス全域的リニューアル(17棟、3グラウンド)を完了し、西日本屈指のICT環境と豊かな自然環境が整いました。



主要施設・設備

情報 最先端のICT設備で教育研究をサポート



情報科学研究所



情報処理センター



図書館

環境 自然環境の保全・育成に配慮



環境科学研究所



ピオトープ



屋上庭園

モノづくり 実践的教育、先進的研究に資する施設設備を整備



エレクトロニクス研究所



半導体デバイス製作実験センター



次世代マイクロ/ナノ金型開発センター

地域貢献 地域の学術文化拠点として施設・設備を開放



FITアリーナ



FITホール



レストランOASIS

アクティブラーニング教室、ラーニング commons の整備。



▲名称:Cultivation Site

学生の主体的学修を誘発する教育施設、アクティブラーニング教室、ラーニング commons を整備しました。



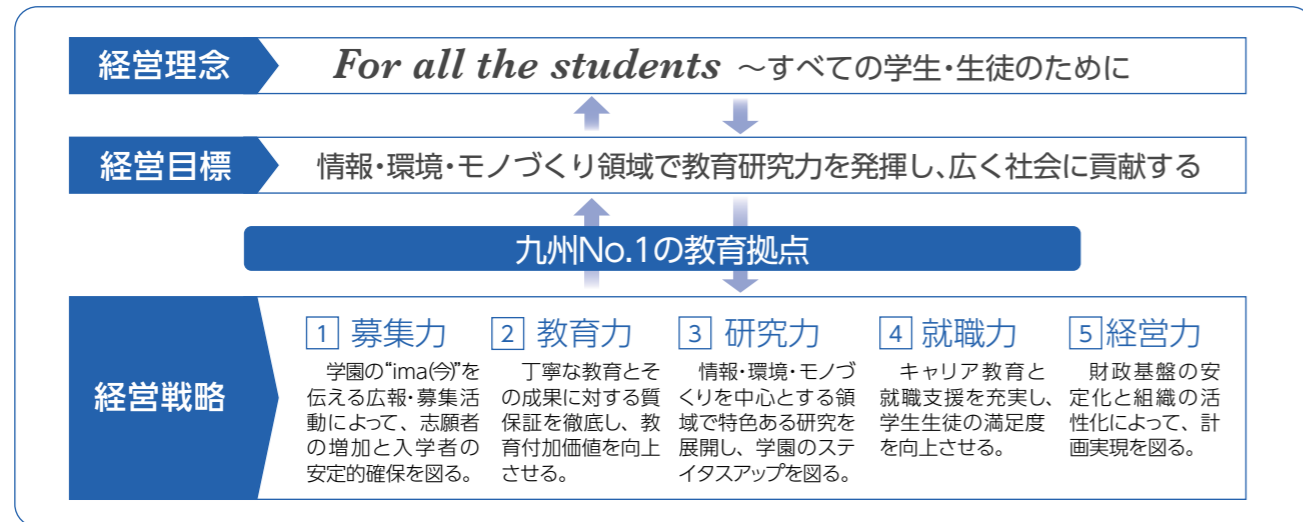
都市景観賞等を受賞

環境と調和するキャンパスは、「福岡市都市景観賞」「花と緑のふくおか県づくりコンテスト県知事賞を受賞するなど、高い評価を得ています。

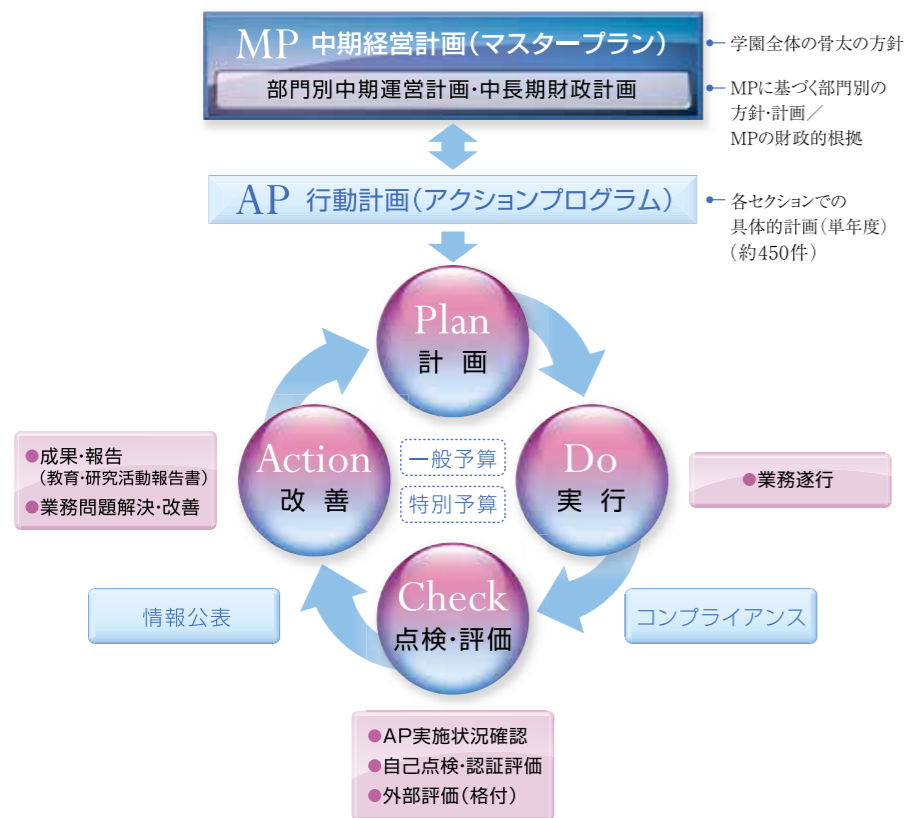
中期経営計画[マスタープラン]の概要

経営理念は「*For all the students* (全ての学生・生徒のために)」、行動規範は「*Just do it* (学生・生徒のために即実行)」として、教育改革を続けています。

中期経営計画(マスタープラン)の理念と目標・重点戦略



マスタープランに基づいて、1年間で約450件ものアクションプログラム(教育改善等の具体的行動計画)を実行しています。

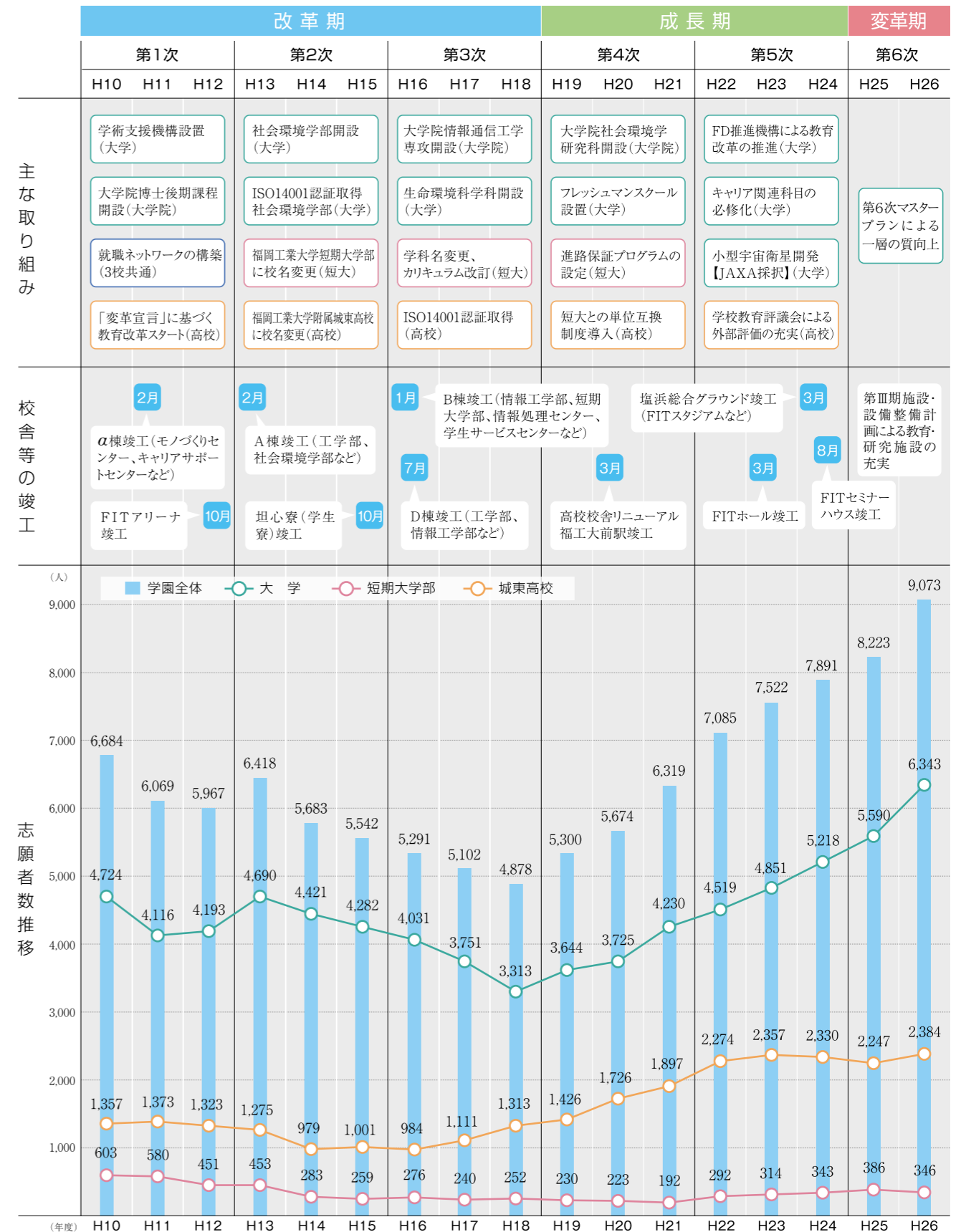


本学園のマネジメントシステムは、5ヶ年の中期経営計画(MP)を単年度の行動計画(AP)に落とし込み、予算編成およびその執行とリンクさせることで諸施策の実効性を高めています。また、達成目標およびその進捗管理を客観的に点検し、PDCAサイクルの実質化・高度化を図っています。

そして、各部門が自立的点検・評価システムを構築することで、学園全体の組織体質がさらに強化され、18歳人口の再減少期を迎える2018年までに、強靱な組織体制を構築することが可能になります。

これらの取組成果を毎年「教育・研究活動報告書」として取りまとめ、ステークホルダーへの情報公表に努めています。

マスタープランの主要な取組とその成果



教育・研究・社会貢献の全ての取組について、国内外の大学、行政、企業等と連携を強め、一層の拡大・改善を図りました。

- | | | | |
|--|---|---|---|
| <p>4月 ・第6次中期計画(マスタープラン)スタート
・JASSOの留学生支援制度に本学の取組が4件採択</p> <p>5月 ・協定校・キングモンクット工科大学(タイ)の学生が海老井副知事を表敬訪問
・オレゴン州立大学工学部とロボティクス研究セミナーを開催</p> <p>6月 ・国公立大・コンソーシアム福岡(本学、九州大学、西南学院大学、福岡女子大学)の平成25年度コンソーシアム戦略会議開催</p> | <p>7月 ・文部科学省「戦略的研究基盤形成支援事業」に本学の計測・情報技術を活用した、防災システム研究プロジェクトが採択
・外務省の21世紀東アジア青少年大交流計画で、ASEAN諸国の学生が来学。本学学生と交流</p> <p>8月 ・協定校・カリフォルニア州立大学イーストベイ校野球部が来学。本学野球部と国際親善試合
・九州産業技術センターとの共催で次世代自動車戦略セミナーを開催</p> <p>9月 ・就業力育成アドバンスプログラムを実施</p> | <p>10月 ・福岡六大学野球リーグで本学野球部が春秋連覇達成
・協定校・南京理工大学の60周年記念式典に参加
・全面的にリニューアルした、教育系情報基盤システムが稼働</p> <p>11月 ・創立50周年記念ホームカミングデー開催
・ラグビー部が九州学生ラグビーリーグ戦3連覇達成</p> | <p>1月 ・JUNBAサミット2014に学長・常務理事が出席。「国際的に通用する教育の質保証」をテーマに国内外の大学幹部と議論
・格付審査により、R&I社から「A」、JCR社から「A+」の評価を得る</p> <p>2月 ・嘉穂総合高校、水産高校と教育連携協定締結
・世界初となる屋外アイスホッケー場竣工</p> <p>3月 ・新宮町と防災・まちづくりで連携協定締結
・日本-台湾ナノ空間材料ワークショップを本学で開催</p> |
|--|---|---|---|

2013	2014
4 Apr.	1 Jan.
5 May	2 Feb.
6 June	3 Mar.
7 July	
8 Aug.	
9 Sept.	
10 Oct.	
11 Nov.	
12 Dec.	



▲来日した協定校・キングモンクット工科大学(タイ)の学生が海老井副知事を表敬訪問(平成25年5月)



▲外務省の21世紀東アジア青少年大交流計画でASEAN諸国の学生が来学(平成25年7月)



▲協定校・南京理工大学創立60周年記念式典に本学学長が出席(平成25年10月)



▲サンフランシスコで開催されたJUNBAサミット2014に、本学学長、常務理事が出席(平成26年1月)



▲協定校・オレゴン州立大学工学部の研究者とロボティクス関連研究セミナーを開催(平成25年5月)



▲協定校・カリフォルニア州立大学イーストベイ校野球部と親善試合(平成25年8月)



▲全面リニューアルした教育系情報システムが稼働(平成25年10月)



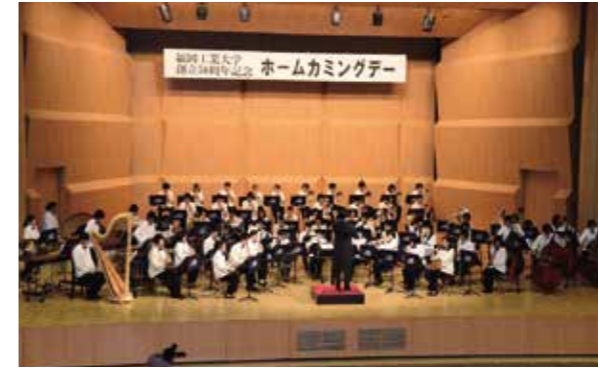
▲嘉穂総合高校、水産高校と教育連携協定締結(平成26年1月)



▲国公立大・コンソーシアム福岡の戦略会議(平成25年6月)



▲福岡六大学野球リーグ戦で本学野球部が春秋連覇(平成25年10月)



▲大学創設50周年記念ホームカミングデー開催(平成25年11月)



▲新宮町と防災・まちづくり連携協定締結(平成26年3月)

学生は、学術・文化・スポーツなどの様々な分野で大きな活躍を見せてくれました。

平成25年度の主なトピックス

- 各学部・学科で知的好奇心を喚起する教育内容を充実させるとともに、丁寧な教育指導を徹底。学会表彰等の高評価に結実。
- グローバル教育プログラムと国際交流の拡大でキャンパスが活性化。
- 学生の主体的な活動に対する支援を充実させ、文化・スポーツ活動なども躍進。

学生の活躍の様子

九州No.1の教育拠点を目指す、独創的な教育内容の充実と丁寧な教育指導



ハーバード大学で開催された、国際生体分子デザインコンテストのプロジェクト発表で生命環境科学の学生が銅賞受賞。



文科省主催の第3回サイエンスインカレで情報システム工学科の学生がコンソーシアム奨励賞を受賞。



IEEK Bwst Paper Award受賞
Worawit Somhaさん(知能情報システム工学専攻、山内研究室)



日本素材物性学会優秀論文発表賞受賞
楠田 愛さん(生命環境科学専攻、太田・北山研究室)

グローバル教育プログラムの充実とキャンパス国際化



外務省21世紀東アジア青少年大交流計画で、多数のASEAN諸国の学生が来学。



協定校のカリフォルニア州立大学でのACEプログラムの模様。

学生の自発性・創造性を促す活動支援の充実



モノづくりセンターのプロジェクトチームがNHK大学ロボコン2013に出場。全国の強豪校と対戦。

学位授与者、表彰者一覧

博士号授与者

ELIS KULLA (知能情報システム工学専攻) 肥山 昌弘 (知能情報システム工学専攻) PHILIP MOORE (論文博士)
 EVJOLA SPAHO (知能情報システム工学専攻) 辻野 和弘 (知能情報システム工学専攻)

学会表彰 (平成26年3月卒学生)

大学院

日本素材物性学会優秀論文発表賞、日本表面技術協会九州支部優秀学生賞
 楠田 愛 (生命環境科学専攻)
 精密工学会九州支部2013年度宮崎地方講演会ベストプレゼンテーション賞
 飯山 公太郎 (知能機械工学専攻)
 日本機械学会三浦賞、日本機械学会若手優秀講演フェロー賞
 平成24年秋季フルードパワーシステム講演会最優秀講演賞
 東嶋 元気 (知能機械工学専攻)
 精密工学会九州支部第13回学生研究発表会ベストプレゼンテーション賞
 益田 大海 (知能機械工学専攻)
 電気学会 九州支部長賞
 野中 忠将 (電気工学専攻)
 生命ソフトウェアシンポジウム2012優秀発表賞
 河合 啓二 (情報工学専攻)
 電子情報通信学会九州支部学術奨励賞
 重富 圭亮 (情報通信工学専攻)

日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞
 亀井 良 (生命環境科学専攻)
 日本金属学会・日本鉄鋼協会 九州支部長賞
 水之江 静 (生命環境科学専攻)
 日本機械学会 島山賞
 池田 明之 (知能機械工学専攻)
 日本機械学会 九州学生会 第45回学生会卒業研究発表講演会優秀講演賞
 岩谷 佳寿生 (知能機械工学専攻)
 精密工学会 九州支部ベストプレゼンテーション賞
 若松 晃仁 (知能機械工学専攻)
 電気学会 九州支部長賞
 窪田 涼介 (電気工学専攻)
 電子情報通信学会 九州支部成績優秀賞
 日野 隆浩 (情報工学専攻)
 電子情報通信学会 九州支部成績優秀賞
 山口 優美 (情報通信工学専攻)
 電子情報通信学会 九州支部成績優秀賞
 串崎 将麻 (情報システム工学専攻)

大学

電子情報通信学会九州支部成績優秀賞
 河野 裕太 (電子情報工学専攻)
 資源・素材学会九州支部 Outstanding Student Award, Kyushu MMUJ
 永田 翔太 (生命環境科学専攻)

短期大学部

電気学会 九州支部長賞
 飯塚 さくら (情報メディア学科)

学生表彰

卒業時成績優秀者

中川 雄貴 (電子情報工学科)
 百田 広明 (生命環境科学専攻)
 池田 明之 (知能機械工学専攻)
 窪田 涼介 (電気工学科)
 日野 隆浩 (情報工学科)
 竹下 弘志 (情報通信工学科)
 三浦 隆弘 (情報システム工学科)
 俵 ひかる (システムマネジメント学科)
 谷口 愛佳 (社会環境学科)
 飯塚 さくら (情報メディア学科)
 関根 あやか (情報メディア学科)
 山本 真衣 (ビジネス情報学科)

個人表彰

第42回福岡六大学野球春季、秋季リーグ戦 個人タイトル獲得者
 葉師 貴宏 (システムマネジメント学科)
 黒水 大輔 (システムマネジメント学科)
 矢野 丈裕 (社会環境学科)
 多田 裕規 (システムマネジメント学科)
 笛田 怜平 (社会環境学科)
 国師 滉史郎 (社会環境学科)
 河野 勇磨 (システムマネジメント学科)
 HSBCラグビー アジアセブンスシリーズ2013日本代表
 中島 進護 (電気工学科)
 第13回玄武会テコンドー交流大会2013 統合ウェルター級男子の部
 黒田 裕介 (知能機械工学科)
 平成25年度福岡県大学準硬式野球春季、秋季リーグ戦 ベストナイン
 石川 拓弥 (電子情報工学科)
 吉永 光男 (社会環境学科)
 樋口 健斗 (電気工学科)
 第63回九州地区大学体育大会水泳競技大会 400m・800m女子自由形 優勝
 梶谷 まり (情報工学科)
 平成24年度後期技能検定に係る佐賀県職業能力開発協会会長賞受賞
 平山 貴博 (知能機械工学科)
 第18回全日本高校・大学生書道展 書道展賞
 朝倉 孝文 (知能機械工学科)
 第7回泉アンサンブルコンテスト 金賞
 泉 嘉門 (生命環境科学専攻)
 田邊 萌 (社会環境学科)
 竹本 法子 (社会環境学科)
 福田 光 (ビジネス情報学科)
 第51回九州学生弓道選手権 男子個人3位
 山崎 智広 (生命環境科学専攻)
 第37回女子東西学生弓道選抜対抗試合 優勝 (西軍代表)
 村山 みのり (情報通信工学科)
 第13回全日本学生エアロビクス選手権大会 女子シングル部門2位
 葛蒲谷 真紀 (ビジネス情報学科)
 国際生体分子デザインコンテストプロジェクト発表会 Bronze award
 黒木 舞香 (生命環境科学専攻)
 安楽 信哉 (生命環境科学専攻)
 岩下 亮 (生命環境科学専攻)
 第67回書道芸術院展 入選
 後藤 典宏 (電気工学科)

団体表彰

第42回福岡六大学野球
 春季リーグ戦、秋季リーグ戦優勝
 硬式野球部
 平成25年度九州学生春季リーグ戦 (I部) 優勝
 第21回九州学生リーグ1部決勝リーグ優勝
 ラグビー部
 全日本吹奏楽連盟理事長賞
 吹奏楽団
 平成25年度九州学生女子柔道優勝大会
 女子3人制の部 準優勝
 女子柔道部
 第13回玄武会テコンドー交流大会2013 団体戦一般の部優勝
 テコンドー部
 第34回九州学生アイスホッケーリーグ戦3部リーグ優勝
 アイスホッケー部
 第52回福岡県女子弓道大会2位
 弓道部
 大学生、専門学校生ストリートダンスコンテストBIGBANG!!OSAKA 優勝
 ダンス同好会ClassJack
 全国学校・園庭ピオトープコンクール2013日本生態系協会賞
 社会環境学部 ピオトープ研究会
 YOKAロボまつり二足歩行ロボットプロジェクト ヘビー級優勝
 モノづくりセンター・二足歩行ロボットプロジェクト

国の科学研究費や企業等の研究費は右肩上がりの採択実績。
採択難易度の極めて高い大型研究補助事業にも採択されました。

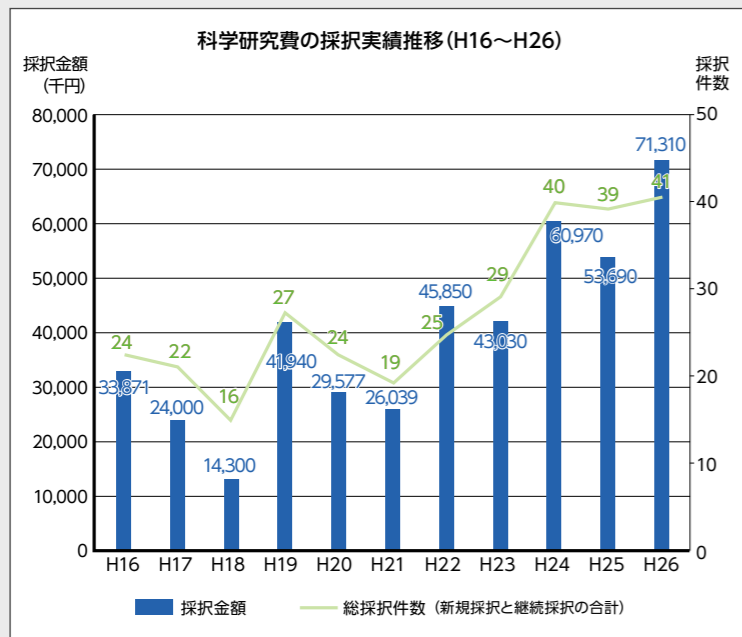
平成25年度の主なトピックス

- ・科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)の採択実績が向上。
- ・国の大型研究助成に採択され、先端計測技術研究センターを開設。レーダー、情報技術等を活用した防災研究で社会貢献。
- ・過去3ヵ年で企業等との受託・共同研究件数が91件となるなど、自動車や医療用ロボティクス等の諸分野で産学連携を推進し、地域発展に貢献。

科学研究費の獲得状況と特許登録実績は向上

平成25年度の科研費の採択実績は39件、平成26年度は41件となり、引き続き高水準を維持しました。また、平成24年度及び25年度の2ヵ年で11件特許登録されるなど、研究レベルの高度化とともに実用化も進展しています。

■ 近年の科学研究費と特許登録実績



過去2ヵ年の国内特許登録実績 (共同研究含む)

- 回転体の空気力測定装置および空気力測定方法
- 非静止物体の三次元画像計測装置、三次元画像計測方法および三次元画像計測プログラム
- スプリットビーム方式合成開口レーダー
- アクティブ制御コロイダルダンパ
- 熱可塑性プラスチック材の溶着装置および溶着方法
- スイッチトリラクタンスモータの駆動方法
- コロイダルダンパ
- 表面検査装置および表面検査方法
- 水のエネルギーを電力に変換する方法及び装置
- ダイヤモンド切削工具及びその製造方法
- 安全運転促進システム

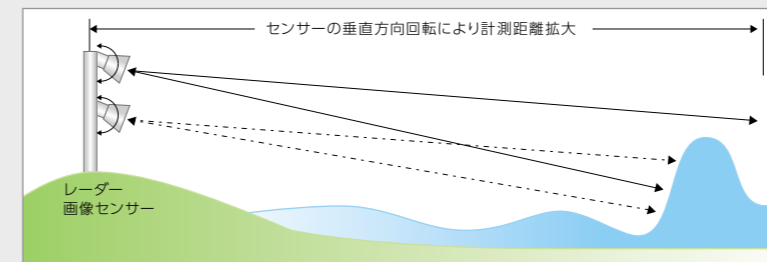
過去5年の実績比較 (H21年度とH26年度)

採択件数: **215.8%**、採択金額: **273.9%**

先端計測技術研究センター開設(文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業)採択

文部科学省の大型研究助成に採択され、先端計測技術研究センターを開設しました。本センターは、本学の画像技術とレーダー技術を融合し、津波計測及び防災システムへの応用研究を進め、津波の高さや到達時間を到達前に早期に予測するシステムの開発を目的としています。

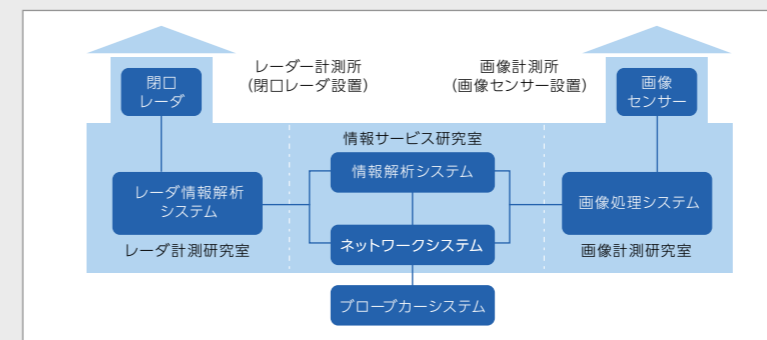
■ 研究内容とセンターの概要



▲レーダーはマイクロ波を使用しているため、天候の影響を受けにくく、遠方の観測対象の情報を収集することができます。また、画像計測技術の活用により、津波の高さ・形状の計測も可能にする。



▲本学キャンパスの屋上に建てられたアンテナ。高台に位置し、玄界灘を眺望できる本学の立地条件を有効に活用できる。



◀実現に向けて、レーダ計測システム、画像計測システム、情報共有ネットワークの構築、の3テーマの研究を進め、それらを最終的に融合させ、実用可能な防災システムの開発を進める。学内だけでなく、九州大学やオレゴン州立大学等の研究者とも連携予定。

■ 主な担当者

- | | |
|------------|--------------------|
| 画像計測システム | 盧存偉教授(代表者、電子情報工学科) |
| レーダ計測システム | 近木祐一郎准教授(電子情報工学科) |
| 情報共有ネットワーク | 松本裕二准教授(電子情報工学科) |
| | 田村睦助教(電子情報工学科) |
| | 森山聡之教授(社会環境工学科) |

産学連携による地域貢献が拡大

本学は総合研究機構内に産学連携推進室を設け、研究活動で得られた成果が、地域社会に有効利用されることを目指しています。特に精密機械加工技術や、モータ技術、ロボティクス技術等を活用して自動車や医療分野で地域企業や自治体と連携研究を進め、これら企業等との共同・受託研究等を3ヵ年で91件実施するなど、地域の産業力向上にも貢献しています。

■ 産学連携に向けた主な取組



次世代自動車戦略セミナー

九州産業技術センターとの共同開催により、九州の自動車産業の発展に向けた交流会を実施。本学研究者の自動車関連技術の研究成果も披露。



最先端加工技術講習会

経産省の北部九州自動車産業活性化人材養成等事業の一環として、先端加工技術の人材育成に資する勉強会や技術相談を毎年実施。地域企業の技術力向上に大きく寄与しています。



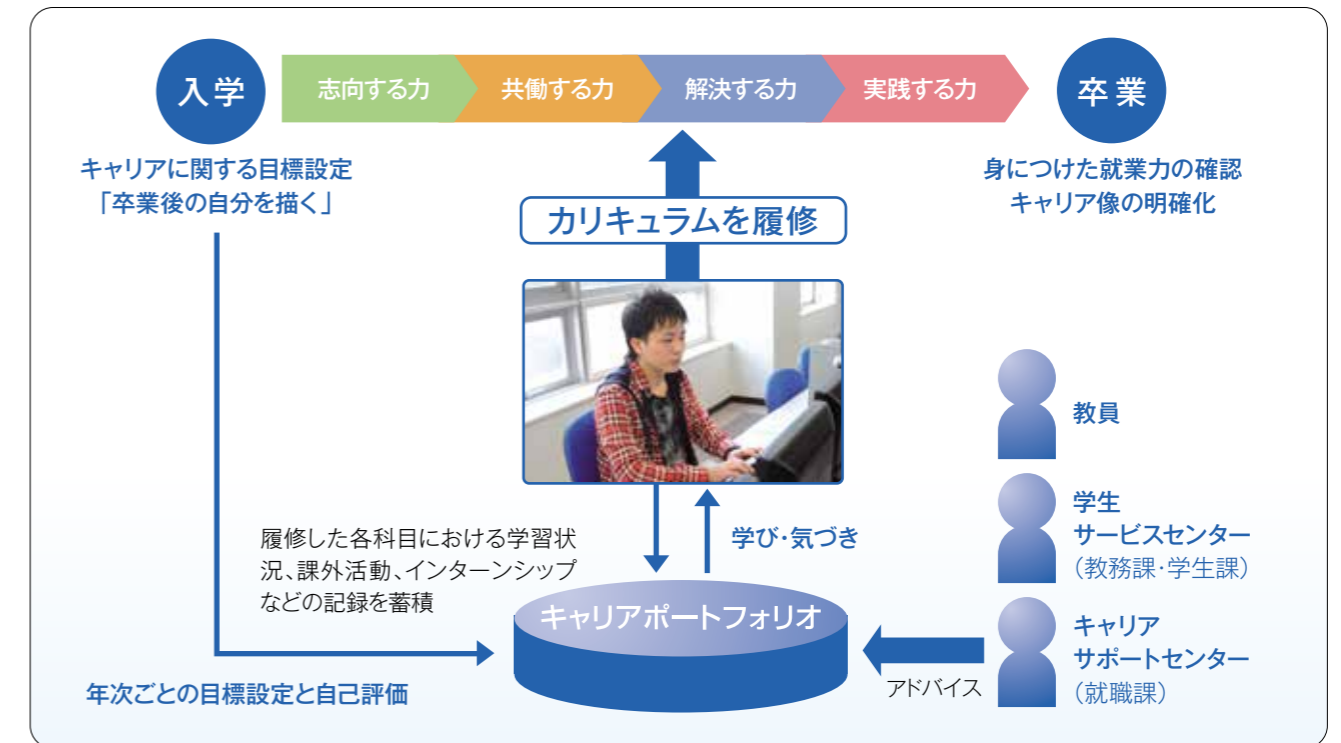
ロボティクス技術の実用化連携

本学は医療分野等で応用可能なロボティクス技術の研究者を多数有しており、展示会や研究会を通じて積極的に研究情報を開示し、実用化に向けた研究を進めています。

就業力育成プログラム(文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」採択)の進展

平成22年度に文部科学省「大学生の就業力育成支援事業」に採択された本学の実業力育成プログラムは、就業力の構成要素を4つの力に分解し、それぞれの力を入学初年次より段階的に身に付ける全学的プログラムです。平成25年度はこれまでの取組を土台に、他大学や地元企業との連携により、実体験を通じて就業力が体得し、より一層キャリア形成に資するよう、プログラムを充実させました。

■就業力育成プログラムの概要



■他大学・企業との連携によるプログラムの充実

「地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト」参加校

- 【福岡県10校】北九州市立大学、福岡県立大学、九州共立大学、九州国際大学、西日本工業大学、福岡工業大学、福岡国際大学、九州女子短期大学、久留米信愛学院短期大学、福岡医療短期大学
- 【山口県1校】下関市立大学
- 【大分県2校】大分大学、日本文理大学
- 【佐賀県2校】佐賀大学、西九州大学
- 【長崎県2校】長崎外国語大学、長崎国際大学
- 【熊本県1校】熊本県立大学
- 【鹿児島県3校】鹿児島体育大学、鹿児島国際大学、鹿児島純心女子大学
- 【宮崎県1校】九州保健福祉大学
- 【沖縄県1校】琉球大学

「産学協働教育による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成」参加校

京都産業大学、成城大学、FIT 福岡工業大学、新潟大学

「未来像を自ら描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成」参加校

九州大学、九州工業大学、福岡大学、熊本大学、FIT 福岡工業大学

地元企業での就業体験
地元企業13社の協力により、短期就業体験を実施。実社会に必要な能力を実地体験で学修。参加者は学生・教職員・企業関係者など950名が参加した報告会で発表し、参加企業から講評してもらった。

4大学学生交流
平成25年9月に成城大学において、京都産業大学、成城大学、新潟大学の学生と学生交流会を実施。様々なワークショップで「大学の授業と学び」「人間関係」「コミュニケーション能力」「働く・仕事」などのテーマを4大学の学生交流を通じて学び、深めました。

平成25年度
ハイライト

就職力強化の取組成果

初年度就職マインドセットから内定後の社会人予備教育まで、系統的な就職教育・就活支援プログラムを整えました。就職・就職内定率共に高位で安定しています。

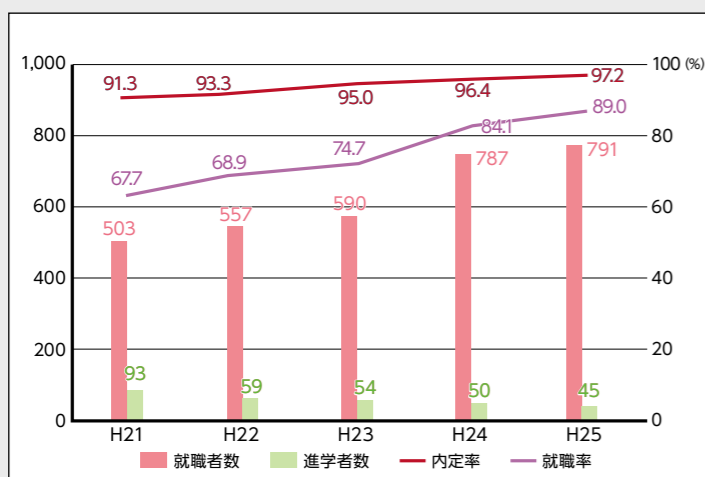
平成25年度の主なトピックス

- ・25年度卒業生の就職内定率は大学・短大ともに約97%と高水準となり、全国水準を上回る。
- ・就業力育成プログラムを他大学との連携で一層充実。系統的な就業力教育・就職支援方法が確立。

進路決定状況は高位安定

本学は、学生の希望に合った就職を実現することが、大学にとって重要な使命であると考え、全学的な就業力育成プログラムや、段階的な就職活動対策などの支援を実施しています。これらの取組が奏功し、下図の通り、高い就職決定率を実現しています。

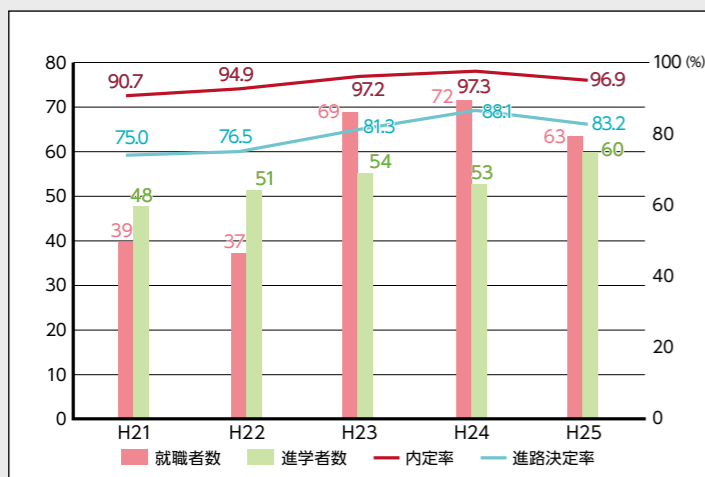
■大学の進路決定状況推移(H21~H25)



就職内定率 **97.2%**
就職率 **89.0%**

	H21	H22	H23	H24	H25
卒業者数	836	868	844	986	934
就職希望者数	551	597	621	816	814
就職者数	503	557	590	787	791
進学者数	93	59	54	50	45

■短大の進路決定状況推移(H21~H25)



就職内定率 **96.9%**
進路決定率 **83.2%**

	H21	H22	H23	H24	H25
卒業者数	132	119	160	151	149
就職希望者数	43	39	71	74	65
就職者数	39	37	69	72	63
進学者数	48	51	54	53	60
進路決定者数	99	91	130	133	124

教育内容・手法の改善、研究の高度化・実用化、良好な進路実績の評価は、毎年の志願者増加に繋がっています。

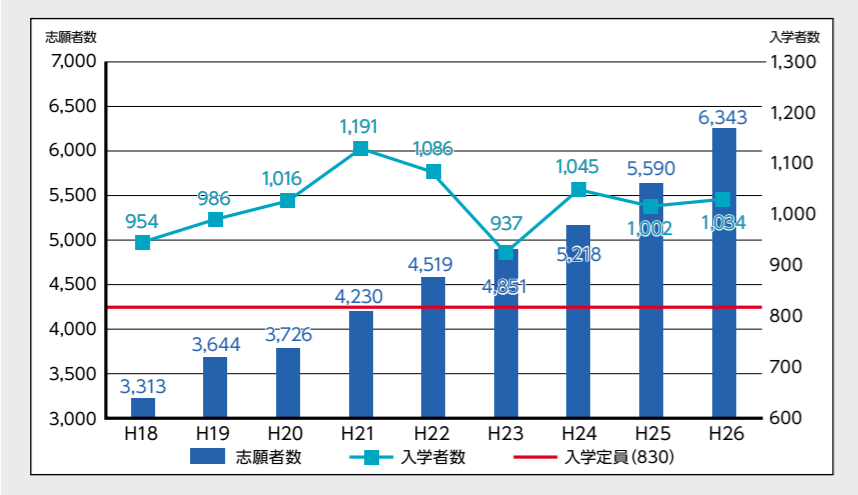
平成25年度の主なトピックス

- ・大学は8年連続志願者が増加し、過去20年で最高の志願者数。短大は全国の短大の60%以上が定員割れの中、安定して入学者確保。
- ・一般入試での倍率上昇が顕著、女子学生の入学者が増加し、入学者層が多様化。
- ・平成27年度入試より、入学定員を増加(認可申請中)させるとともに、Web出願を導入するなど、入試制度を見直し予定。教育機会及び受験機会を拡大。

平成26年度入試概況は極めて良好

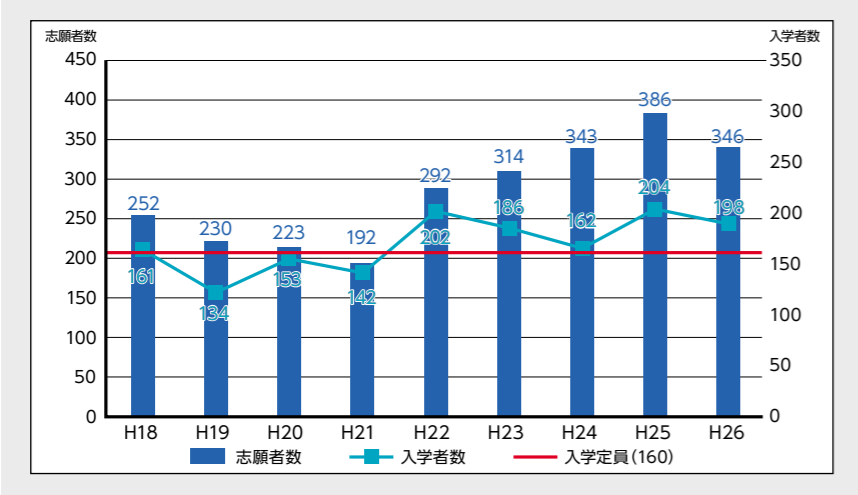
平成26年度入試は、大学の志願者数は、8年連続増加となる延べ6,343名となり、入学者は1,034名となりました。これは、過去20年で最大の志願者数となります。また、短大は延べ志願者数が346名、入学者が198名となり、5年連続で入学定員を確保しました。受験生人気の高まりにより、特に一般入試における倍率向上が顕著な他、女子学生の入学者数が大幅に増加しています。

■大学の志願者・入学者推移(H18~H26)



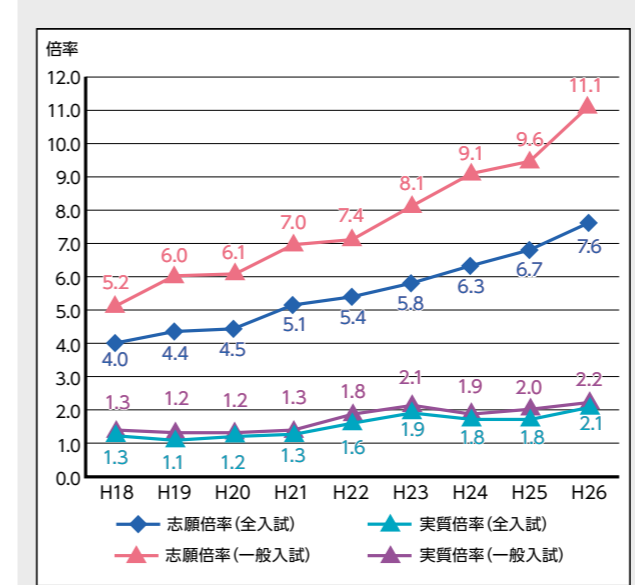
全国の大学の約40%、短大の約60%が入学定員未充足の中(私学事業団調べ)、入学定員確保に十分な志願者数で推移。

■短大の志願者・入学者推移(H18~H26)



5年連続で志願者が増加している大学は全国で本学を含め15校のみ(平成20年度~平成25年度入試、サンデー毎日2014年3月2日号より)

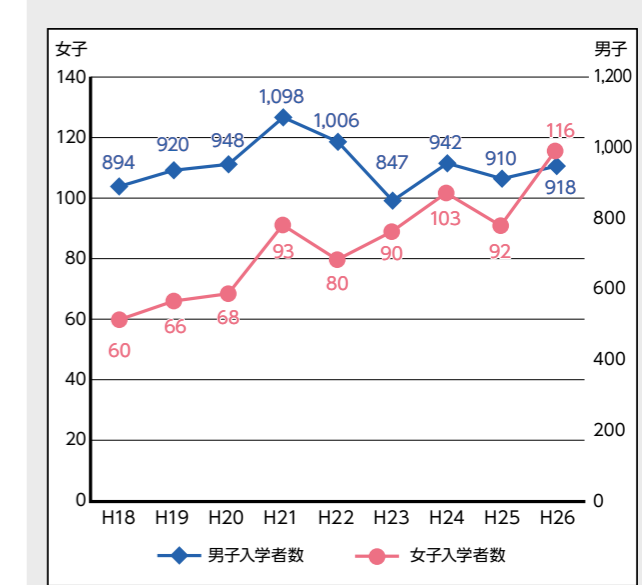
■入試倍率の推移



一般入試の倍率が飛躍的に向上

H18年とH26年の比較
志願倍率: 210%、実質倍率: 170%

■男女別入学者数の推移



女子学生数が大幅増加

H18年とH26年の比較
190%

入学定員の変更(認可申請中)とWeb出願制度の導入予定

受験生人気の高まりによる、本学への要望に対応し、平成27年度入試より、入学定員の増加を図る(認可申請中)他、Web出願を導入し、教育機会及び受験機会の拡大を図る予定としています。

■入学定員の変更(H27年度入試に向け、認可申請中)

学部学科の名称	入学定員	
	(現行)	(新)
工学部	電子情報工学科	80 ▶ 90
	生命環境科学科	80 ▶ 90
	知能機械工学科	100 ▶ 110
	電気工学科	80 ▶ 90
情報工学部	情報工学科	120 ▶ 130
	情報通信工学科	80 ▶ 90
	情報システム工学科	80 ▶ 90
	システムマネジメント学科	60 ▶ 65
社会環境学部(文系)	社会環境学科(文系)	150 ▶ 160

■Web出願(平成27年度入試より実施)



PC・スマホ・タブレットから出願可能

- ・24時間出願可能
- ・コンビニで24時間検定料支払可能
- ・願書の取り寄せが不要

総入学定員 830名 ▶ 915名

経済効率性を重視した経営管理システムを用いて、教育・研究への積極的資金投下(学費還元の最大化)と安定財政の両立を「全国屈指の低学費」で実現しています。

平成25年度の主なトピックス

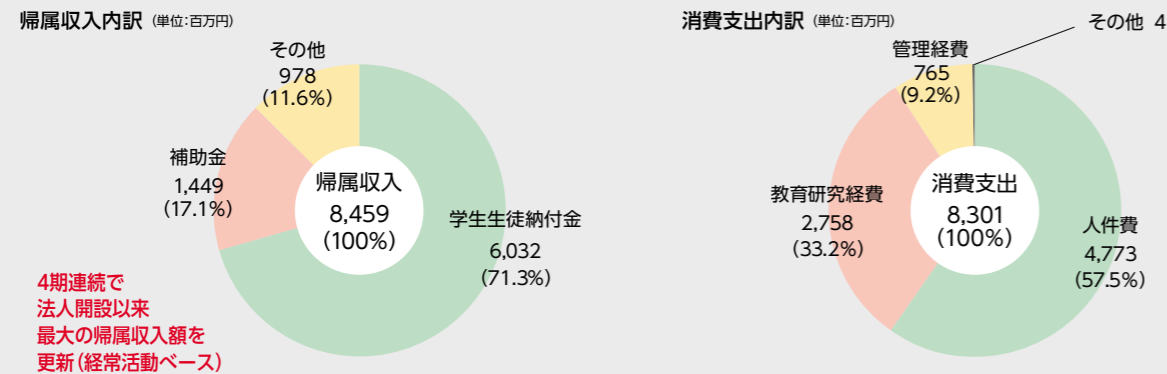
- ・9年連続計画通り帰属収支黒字。4期連続で法人開設以来最大の帰属収入額を更新。高水準の自己資金比率を堅持。
- ・経営・財務運営・情報公表システムが高評価を受け、全国の先進事例として発表。
- ・安定した財政基盤を土台に、低学費政策により、学生還元を積極化。

安定した財務運営

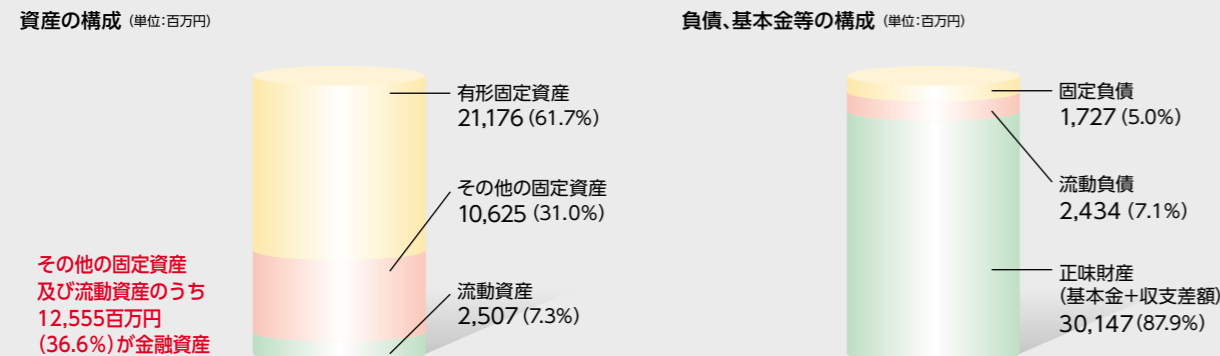
平成25年度決算は、収支状況については、総収入が約84.6億円、総支出が83億円となり、その結果約1.6億円の収支黒字を計上しました。これで9年連続黒字決算となり、良好な収支状況が継続しています。また、財政状態については、自己資金比率が87.9%と高水準にあり、学園の総資産の大半が自己資金によって賄われ、健全な財政状態にあります。

■収支状況と財政状態

平成25年度消費収支計算書の概要(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)



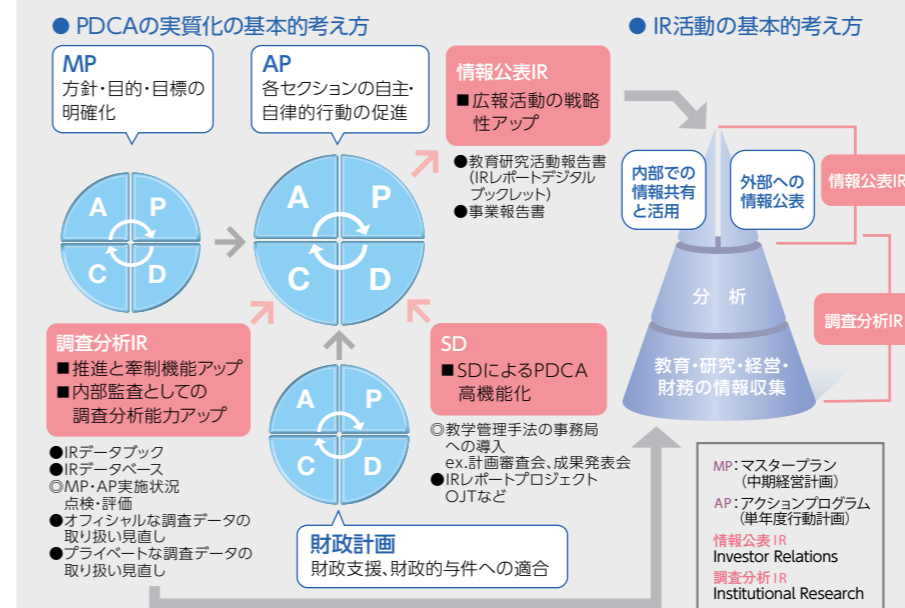
平成25年度貸借対照表の概要(平成26年3月31日現在)



PDCAと情報公表などの経営管理システムは全国的に高評価

限られた資源の中で教育・研究成果を向上させるために、PDCAサイクルを強く意識して、費用対効果を高める経営管理システムを導入し、毎年改善を進めています。

■経営管理システムの基本的な考え方

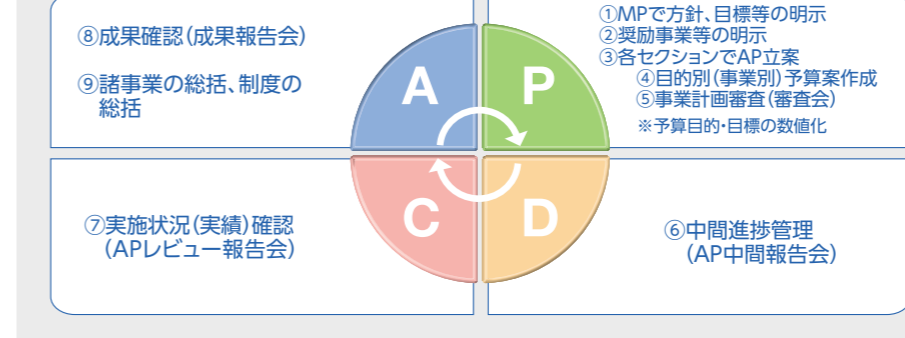


本学常務理事・大谷が全国の大学経営幹部を前に経営管理システムについて講演。(平成24年10月私学リーダーズセミナー)



学園の様々な取組は、PDCAサイクルの考え方に基づいて、進捗管理をし、成果創出につなげている。写真は計画審査会の模様で、教職員が取組内容について議論し、内容の向上を図っている。

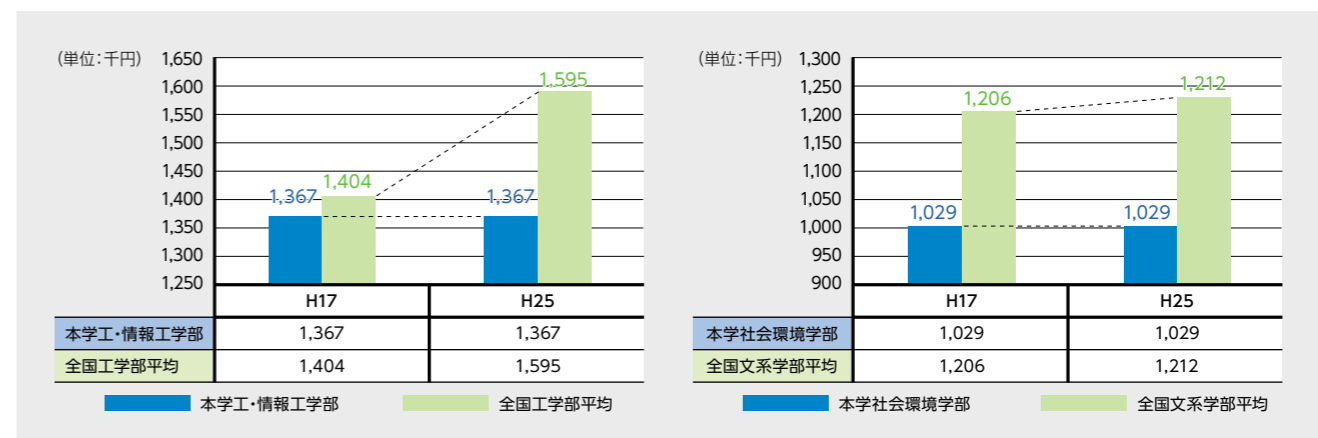
●AP(単年度行動計画)及び配分予算管理サイクルの具体例



全国の大学の平均学費が上昇する中、全国トップレベルの低学費を堅持。

効率的な経営管理システムによる安定した財政状態を土台に低学費政策を堅持しています。下図の通り、本学の学費は、全国平均と比べて低く、全国トップレベルの低学費を堅持しています。


■初年度納付金の比較(平成17年度・25年度、全国平均は日本私立大学団体連合会調べ)



教育・研究・経営・財政の様々な改革・改善の取組とその成果は、全国大学の先進事例として、評価・紹介されています。

2つの会社の格付けは高評価


学校法人福岡工業大学は、教育・研究、経営・財務に関する第三者評価の一環として、平成22年度から株式会社格付投資情報センター(R&I)が実施する格付の更新審査を受審してまいりました。そして、平成25年度からは新たに株式会社日本格付研究所(JCR)が実施する格付審査を受審し、2社の格付会社による異なる視点からの評価を受けることで、本学園経営のさらなる改革・改善に努めています。



A
R&I格付

平成22年度から4年連続の「A」を維持

2つの格付会社から
格付を取得しました。




A+
JCR格付

平成25年度新たに格付「A+」を取得

大学情報誌などで高評価・紹介

週刊東洋経済 平成25年11月2日号 東洋経済新報社

地域別・学部別就職率の大学ランキングにおいて、福岡工業大学工学部が九州・沖縄地区の理系学部で第3位(私学1位)となりました。



大学探しランキングブック 2014 大学通信

面倒見が良い大学 九州私学 1 位(全国11位)	就職に力を入れている大学 九州 1 位(全国10位)	改革力が高い大学 九州私学 2 位(全国44位)
------------------------------------	--------------------------------------	------------------------------------

大学ランキング 2015 朝日新聞社

高校からの評価(総合) 九州私学 3 位(全国44位)	事務局長からの評価(総合) 九州私学 1 位(全国34位)	初年度納付金(安い) 学際系 全国 1 位
初年度納付金(安い) 工・理工系 全国 6 位		

大学研究誌等で先進事例として数多く紹介

大学経営研究誌での掲載事例

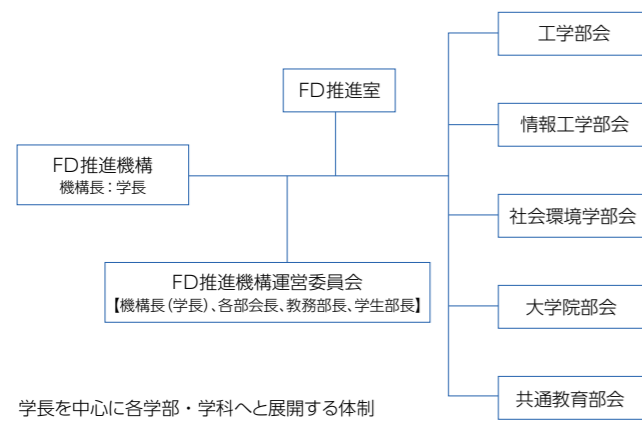
	<p>「大学経営強化の事例集」</p> <p>文部科学省委託研究において、本学の経営計画およびその実行計画の管理運営システムについて、数少ない好事例として紹介されました。(2007.3)</p>
	<p>「私学経営」</p> <p>私学経営研究会セミナー(東京・大阪の二地区で開催)における常務理事の経営管理に関する講演の抄録が掲載されました。(2008.3)</p>
	<p>「学校法人」</p> <p>経費効率化を促し教育効果を向上させる予算制度が構築されているとして、高く評価され紹介されました。(日本私立学校振興・共済事業団レポート)(2008.7)</p>
	<p>「大学外組織評価研究会」</p> <p>大学評価・学位授与機構の研究で、本学の経営管理システム、特に様々な取り組みの評価活動について、他大学に重要な示唆を与えるとして評価されました。(2009.3)</p>
	<p>「私学経営」</p> <p>私学経営研究会の定例セミナーにおいて、経営計画の実現性を高める予算管理について講演した内容が掲載されました。(2009.12)</p>
	<p>「大学評価・学位研究」</p> <p>本学のPDCAの一環として行う事業評価・改善の手法が、非営利組織の経営論の権威であるピーター・F・ドラッカーの経営理論との対比によって評価されました。(2010.3)</p>
	<p>「カレッジマネジメント」</p> <p>次世代リーダーを育成するために実施している、アメリカ研修プログラム(FASTプログラム)が他大学にない独創性と密度の濃さがあると評価され、紹介されました。(2011.1)</p>
	<p>「大学経営の評価システム」</p> <p>本学のPDCAを基盤とした経営システムが、評価が機能する体制の好事例として取り上げられました。(2012.3)</p>
	<p>「教学IRとエンrollment・マネジメントの実践」</p> <p>本学の中期経営計画に基づいた経営管理システムが、実行できる中長期経営計画の作り方の好事例として、常務理事、事務局長のインタビューと併せて紹介されました。(2012.3)</p>
	<p>「中長期経営システムの確立、強化に向けて」</p> <p>実効性のある中長期経営システムの構築に関連する事例調査の対象校の一つとして選定され、本学の中期経営計画に基づいた運営の特長が紹介されました。(2013.2)</p>
	<p>「大学マネジメント改革」</p> <p>中堅職員対象の渡米研修による職員の企画・開発力養成に向けた取組が、先駆的なマネジメントシステムを担う、職員の能力開発の好事例として取り上げられました。(2014.3)</p>
	<p>「私学経営」</p> <p>経営管理システムに内包するSD・OJT機能について、全国の大学関係者の前で講演した内容が、私学経営研究会の会誌に掲載されました。(2014.5)</p>

全学部・学科をあげて新たな教育法開発、学業表彰制度の見直しなど、総合的な教育改善に取り組んでいます。

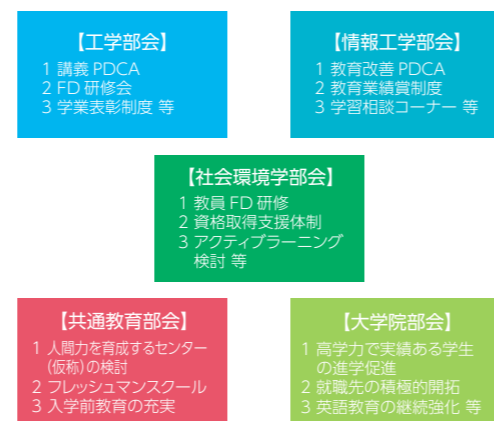
全学的教育改善活動を推進する組織体制を整備しています。

FD推進機構の組織体制と5つの部会の活動概要

FD推進機構組織図



部会の主な活動目標



学長を中心に各学部・学科へと展開する体制

FDスケジュール

取組内容	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
教育の基盤的条件整備	人材育成とそのプロセスの具体化に向けた3つのポリシーの改定	見直し・体系化	→	基盤整備完了	
	学修目標とプロセスを明確化したシラバスの改善	→	見直し	→ 整備した基盤による教育改善	
	学修評価の仕組み整備	→	標準化検討	→	
授業改善の仕組み整備	ピアレビューの全学的展開(教員相互授業参観、FDコミュニティ形成)	→	継続・充実	→	
	授業改善に資する授業評価アンケートの改善	→	見直し	→ 改善したアンケートによる授業改善	
補助事業(GP)等による教育内容の充実	就業力育成支援事業	(平成23年度まで)	→	→	
	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(テーマA)	→	継続・充実	→	
	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業(テーマB)	→	→	継続・充実 (平成27年度まで)	
	大学間連携共同教育推進事業	→	継続・充実	→	継続・充実 (平成28年度まで)
	コンソーシアム・福岡	→	第2フェーズ	→	→
共通教育センター(仮称)開設による、初年次教育・語学教育の充実	初年次教育部会と共通教育部会の統合	→	検討	→ 開設	
フレッシュマンスクールによる基礎学力養成	→	継続・充実	→	共通教育センター(仮称)に移管	

教育の質向上を確実にするために、文科省等の補助事業を積極的に活用しています。

GPへの取組

近年の文科省補助事業の採択実績

採択年度	取組名	文科省補助事業名	参加校
平成24年度	地域力を生む自立的職業人育成プロジェクト	産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	本学(幹事校)、九州・沖縄・山口地域の22校
	産学連携による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成	大学間連携共同教育推進事業	京都産業大学(代表校)、成城大学、新潟大学、本学
	未来像を描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成	大学間連携共同教育推進事業	九州大学(代表校)、九州工業大学、熊本大学、福岡大学、本学
平成22年度	[4つの力]育成によるキャリア形成支援	大学生の就業力育成支援事業	本学単独
平成21年度	キャリアプランニング支援と就活学び直しプラスワンプロジェクト	大学教育・学生支援推進事業	本学単独
平成20年度	国公立大・コンソーシアム福岡	戦略的大学連携支援事業	本学(代表校)、九州大学、西南学院大学、福岡女子大学

補助採択事業における取組事例



就業力育成アドバンスプログラム

成城大学におけるワークショップの様態。全国の各大学との連携、教育手法の共同研究を進めることで、教育内容の充実を図っている。



インターンシップの高度化

産業界からの意見を踏まえて効果的なインターンシップのためのモデルプログラムを連携校共同で開発している。

教育の質向上に向けた主な取組



FD研修会

学内の教育実践例の発表や、外部講師の講演会などにより、学内外の好事例の共有を通じ、授業方法の改善を図るために、年数回実施しています。



教育業績表彰・学生表彰

各学部で教育改善に功績のあった教員へ表彰を実施。また、学業成績や難関資格を取得した学生に対して表彰制度を設けており、教員・学生双方がより良い授業を作り上げていく環境を整備しています。



授業評価アンケート

前期・後期末の年2回、全授業を対象に、学生による授業評価アンケートを実施。結果は定量データにまとめられ、授業改善のポイントを把握し、次期の授業内容がよりわかりやすく、充実したものとなるよう、評価制度を構築しています。



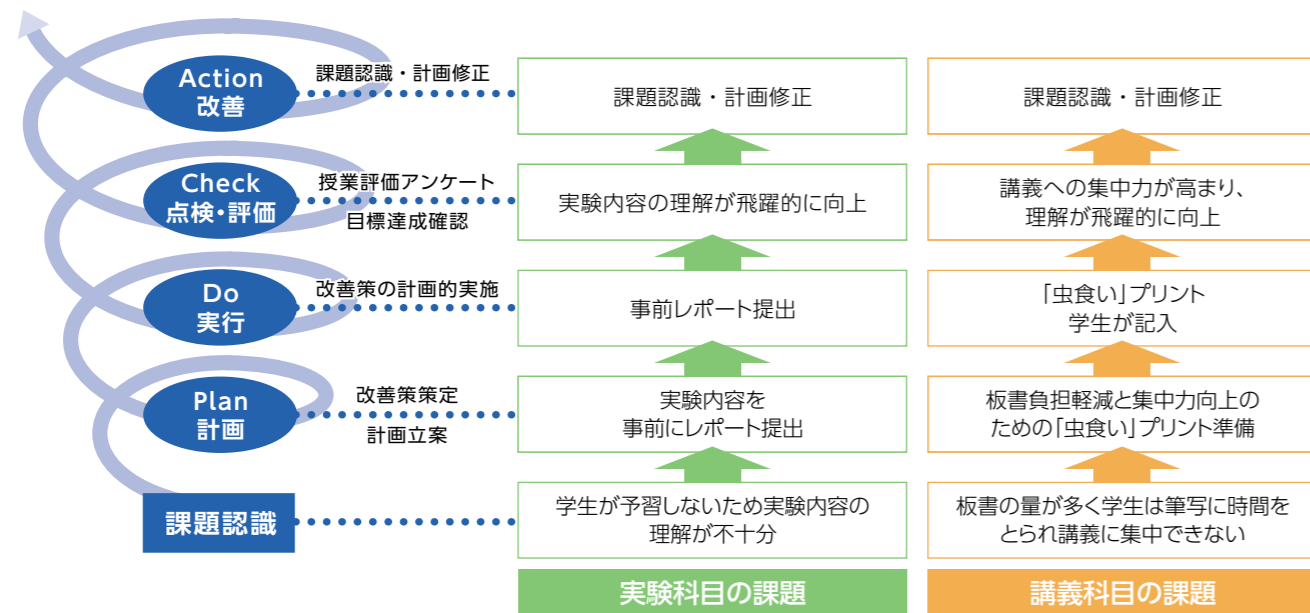
FDアニュアルレポート

FD各部会の年間活動報告や主な教育改善活動の状況などをアニュアルレポートとしてまとめ、教育活動の充実度合いを毎年総括しています。好事例の情報共有や教育内容の一層の充実に向けて、ピアレビューの全学展開を図っています。

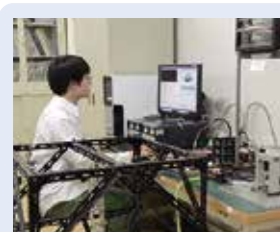
工学部全体で、講義PDCA(講義の継続的改善)、FD(教育法研修・開発)の見直しなどに積極的に取り組みました。

講義PDCAサイクルを中心とした、教育改善の仕組みを整備し、各学科の教育内容の充実につなげています。

講義PDCAサイクルの概要と事例



工学部の主な取組



大学院連携教育
学部と大学院を連続した期間として捉え、体系的で充実した教育研究基盤を整備しています。



FD研修会
教授方法の共有や意見交換での気づき等から教育改善へつなげていくFD研修会を開催しています。若手教員や新任教員から積極的な教育改革提言がなされ、活発な議論が交わされています。



就職支援
工学部教員が一体となった就職支援活動を展開しています。就活の基本スキルに留まらず、人生の目的や就業の心得を伝える等、内定率に表れない、学生の就活満足度の高さが見られるようになりました。



資格取得支援
資格取得を支援することにより、自主的な学修を促し就職力を高めています。難関資格に挑戦する学生が増える等大きな効果を上げています。

電子情報工学科

講義と実践の融合で、電子・情報技術をハード・ソフト両面から理解し、電子デバイス開発に貢献できる技術者を育成

電子情報工学科では、電子技術、情報技術とそれらを組み合わせた総合システムを学び、現代の様々な電子情報機器の開発に貢献できる技術者の育成を目指しています。

基礎から着実に技術者に必要な創造力と実践力を養成するために、電子回路やプログラミング、半導体デバイスの実験設備を充実させている他、平成25年度は特に、一線で活躍するスペシャリストを招聘し、生の開発現場の声を講義に活用するなど、理論と実践の融合を一段と進めました。



マイクロ波イメージング計測器による実験模様

生命環境科学科

実験科目を充実させ、バイオ・素材・食品等、応用化学技術者として不可欠な実践的スキルを養成

生命環境科学科は、物質化学や生命化学、食品化学などの応用化学を教授し、環境問題の解決に資する素材開発等に貢献する技術者の育成を目指しています。

実験科目をコアとした実践的で丁寧な教育体制を特徴としており、平成25年度は先端の化学実験用機器の整備を進めるとともに、チューターを積極的に活用し、講義・実験理解度を向上させ、教育効果を高める取組を強化しました。



高速液体クロマトグラフィーによる実験模様

知能機械工学科

JABEE認定カリキュラムと産業界との連携教育を通じ、即戦力となる機械技術者を育成

知能機械工学科は、JABEE認定の教育プログラムのもと、世界水準のエンジニアリングデザイン教育環境を整備しています。

平成25年度は、教育の質を向上させるために、教員自らテキストを作成し入学前教育を強化すると共に、パナソニックと協働で産業界基礎教育を充実させました。この他、トヨタのプリウスカットモデルを導入するなど実験環境を拡充し、学生の知的好奇心を高揚させながらバランスよく教育改善しています。



レーザー加工機でダイヤモンド工具を成形

電気工学科

工学分野の就業力育成教育内容を独自構築し、バランスのとれた実践的技術者を育成

電気工学科では、電気機器、電子回路、システム制御、電気エネルギーシステムの4領域をバランスよく学び、幅広い産業分野で不可欠な電気技術者を育成しています。

専門知識の修得に加え、就業力・人間力を重視し、バランスのとれた人材を育成するために、コミュニケーション能力育成教育や、PBLによる課題解決能力育成教育を充実させています。これらの取組により、平成25年3月卒業生は、就職内定率100%を達成しました。

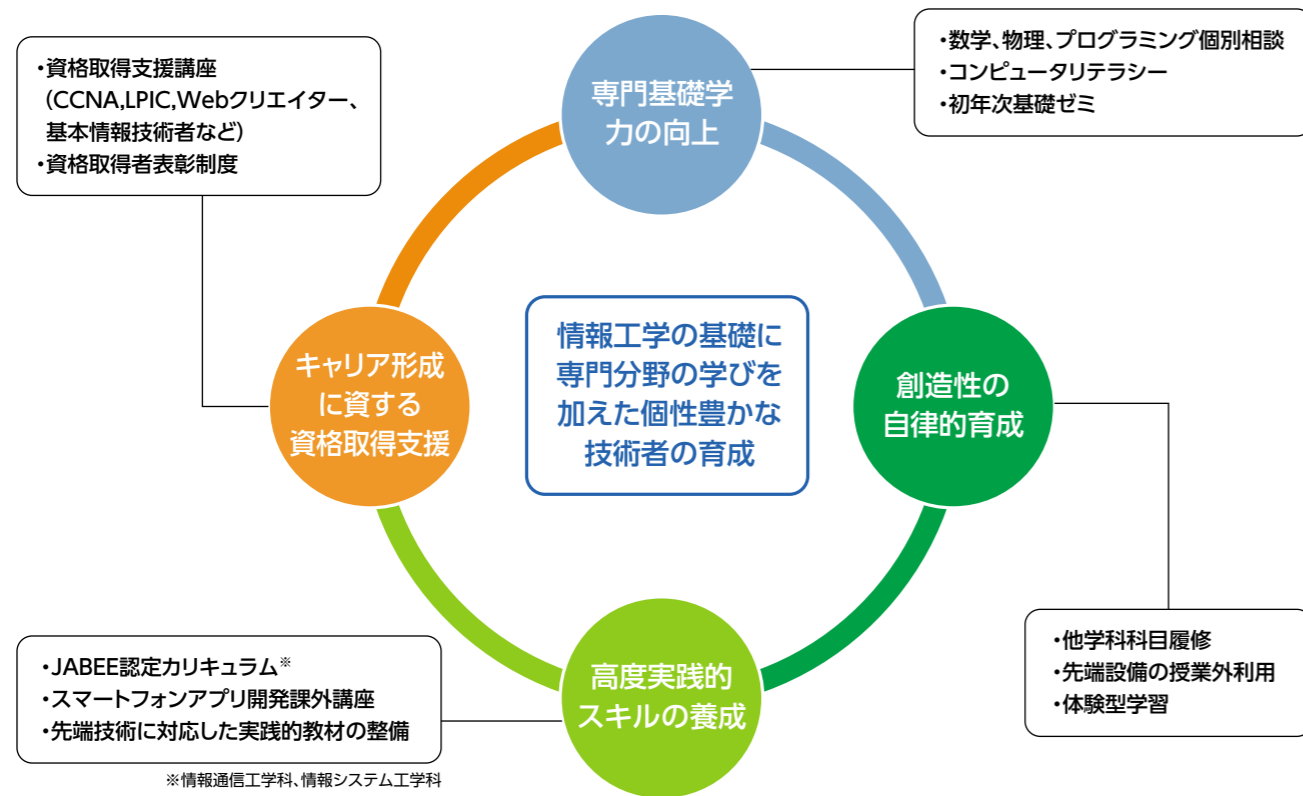


SRモータを活用した電気自動車の開発

情報工学部全体で、専門基礎学力の向上、実践的スキルの養成などに積極的に取り組みました。

情報工学の基礎を確立した上で、着実に専門性を高める学修環境を整備しています。

個性豊かな技術者育成に向けた学科横断的取組



専門基礎学力の向上

4学科共通でプログラミングやコンピュータリテラシー、数学・物理の基礎など、情報工学の基礎力を身に付ける科目を開講しています。相談コーナーも設け、担当教員や先輩学生が理解度に応じた個別指導も実施しています。



創造性の自律的育成

授業以外の時間帯にも自由に利用できるコンピューターを多数整備している他、他学科科目の受講制度も導入しており、創造力を自主・自律的に伸ばす環境を整備しています。



高度実践的スキルの養成

夏季休暇期間中に、外部の専門家によるスマートフォンアプリ開発講座を開講するなど、学生ニーズに応え、通常の授業では触れきれない、高度な実践的スキルを養成する取組を継続的に実施しています。



キャリア形成に資する資格取得支援

IT業界でのキャリア形成に不可欠なCCNAやLPIC等、難易度の高い資格取得を奨励し、4学科共通で課外講座等の資格取得支援を実施しています。取得学生に対する学生表彰制度も導入しており、学生の積極的なチャレンジを奨励しています。



情報工学科

情報科学を最新設備で実践的に教授し、先端IT分野で活躍できる技術者を育成

情報工学科は、情報科学、プログラミング、人工知能、コンピュータ技術の4領域を主たる学修領域とし、情報分野の最先端で活躍できる技術者育成を目指しています。

変化が速い情報分野の先端技術の学修に不可欠な最新設備を継続的に整備しており、ハードとソフトの連関を実践的に学ぶ教育用ロボットや回路キット、産業界で一般的に使用される設備と同等のVLSI設計システムなど、教育・研究設備を充実させています。



データグローブを用いた次世代インターフェースの開発

情報通信工学科

JABEE認定カリキュラムと難関資格取得支援カリキュラムを組み合わせ、通信・放送業界で不可欠な技術者を育成

情報通信工学科は、情報、通信、ネットワーク技術者を育成する教育体制を整備しています。

平成25年度は、アクティブラーニング形態の授業で使用する創成実験機器を追加し、少人数グループ実験を進展させました。また、JABEEによる技術者教育プログラム認定を継続させ、教育の質の保証に取り組んでいます。



アプリケーションの開発と実機確認

情報システム工学科

独自開発の実験機材とJABEE認定カリキュラムを通じ、ハード・ソフトの連関を理解し、最適なシステム構築に貢献できる技術者を育成

情報システム工学科は、制御技術やシステムLSIなどのハード分野と、人工知能などのソフト分野を総合的に教授し、ハードとソフト両面の知識を駆使し、情報システムを構築できる人材の育成を目指しています。

JABEE認定の国際的エンジニアリングデザイン教育カリキュラムを整備すると共にSA(Student Assistant)の充実や、ハードとソフトの連関を実践的に理解するための独自ロボット教材の開発を進め、学生の理解・学修意欲の向上を図っています。



人工知能を用いたゲームシステム開発

システムマネジメント学科

文理融合カリキュラムで経営とITに通じ、企業の競争力強化に貢献できる人材を育成

システムマネジメント学科は、コンピュータと経営の両知識を習得・活用し、経営の諸問題を解決できる人材を育成しています。

平成25年度は、「出口保証」に注力し、OB・OG及び内定者による講演会・座談会で学生の就業意識を向上させるとともに、SPI対策を実施し、着実に内定率・就職率を向上させました。

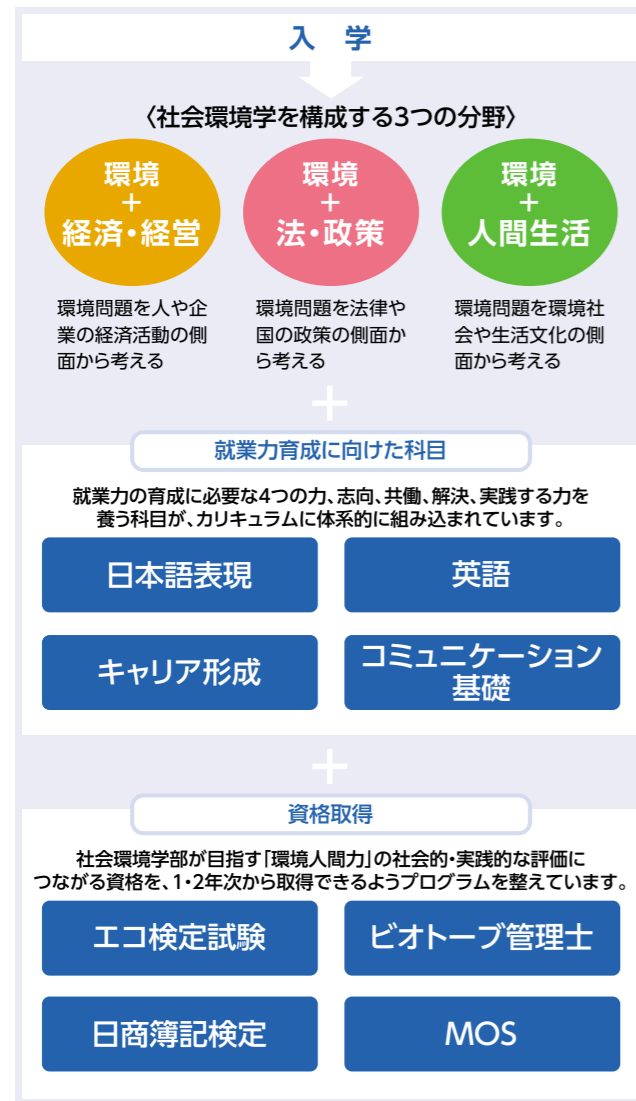


ビッグデータの活用手法についてのゼミ風景

社会環境学部では4年間のゼミを中核として、環境マネジメントスキルの養成や資格取得に向けて積極的に取り組んでいます。

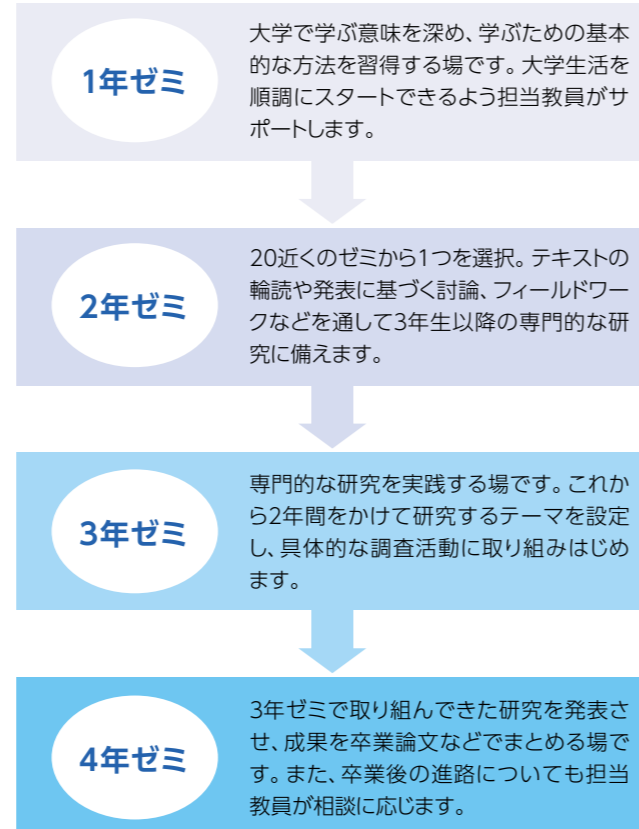
4年間のゼミ形式で環境を多角的に学び、就業力と資格取得を加え、環境問題解決に貢献できる能力が身に付くカリキュラムを構成しています。

社会環境学部の教育内容の特徴



4年間のゼミナール形式

学生と教員、学生同士の対話を尊重し、少人数制のもと、学生自らがテーマを設け、調べ、発表し、応答する力を養うことが目的です。



国際規格ISO14001を活用した実践的環境マネジメント教育

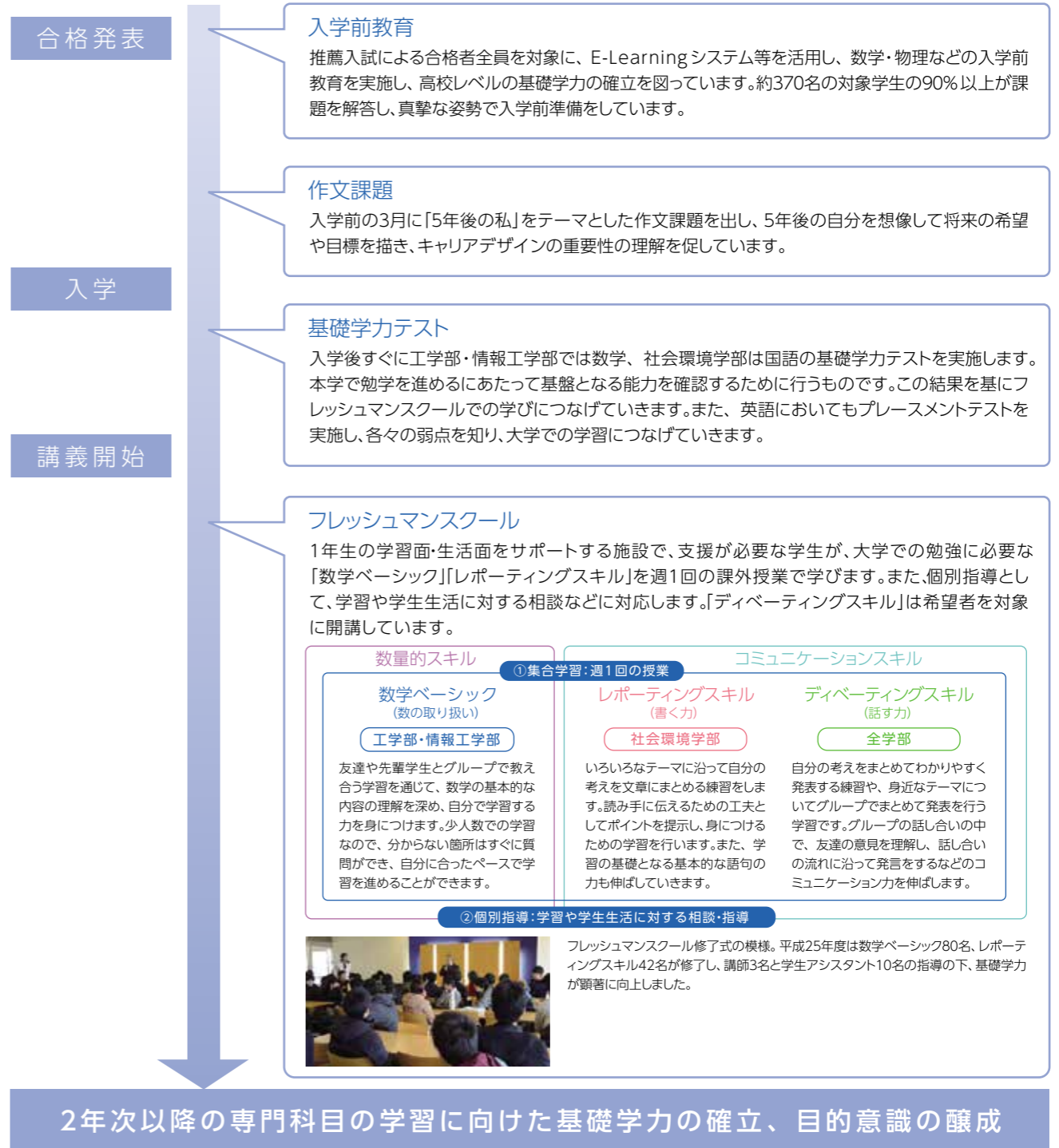
平成15年に福岡県内の大学として初めて環境マネジメントシステム・ISO14001の認証を取得し、教育に活用しています。学生主体の様々な環境保全活動を通じ、環境への影響を軽減するシステムを構築し、PDCAサイクルに基づいて持続的に改善するマネジメント方法を実践的に学んでいます。



入学前から初年次にわたる段階的な教育プログラムで、基礎学力の向上を図り、多くの学生の学力向上が確認されました。

学生個々の学習歴、学力レベルに応じた初年次教育体制を整備しています。

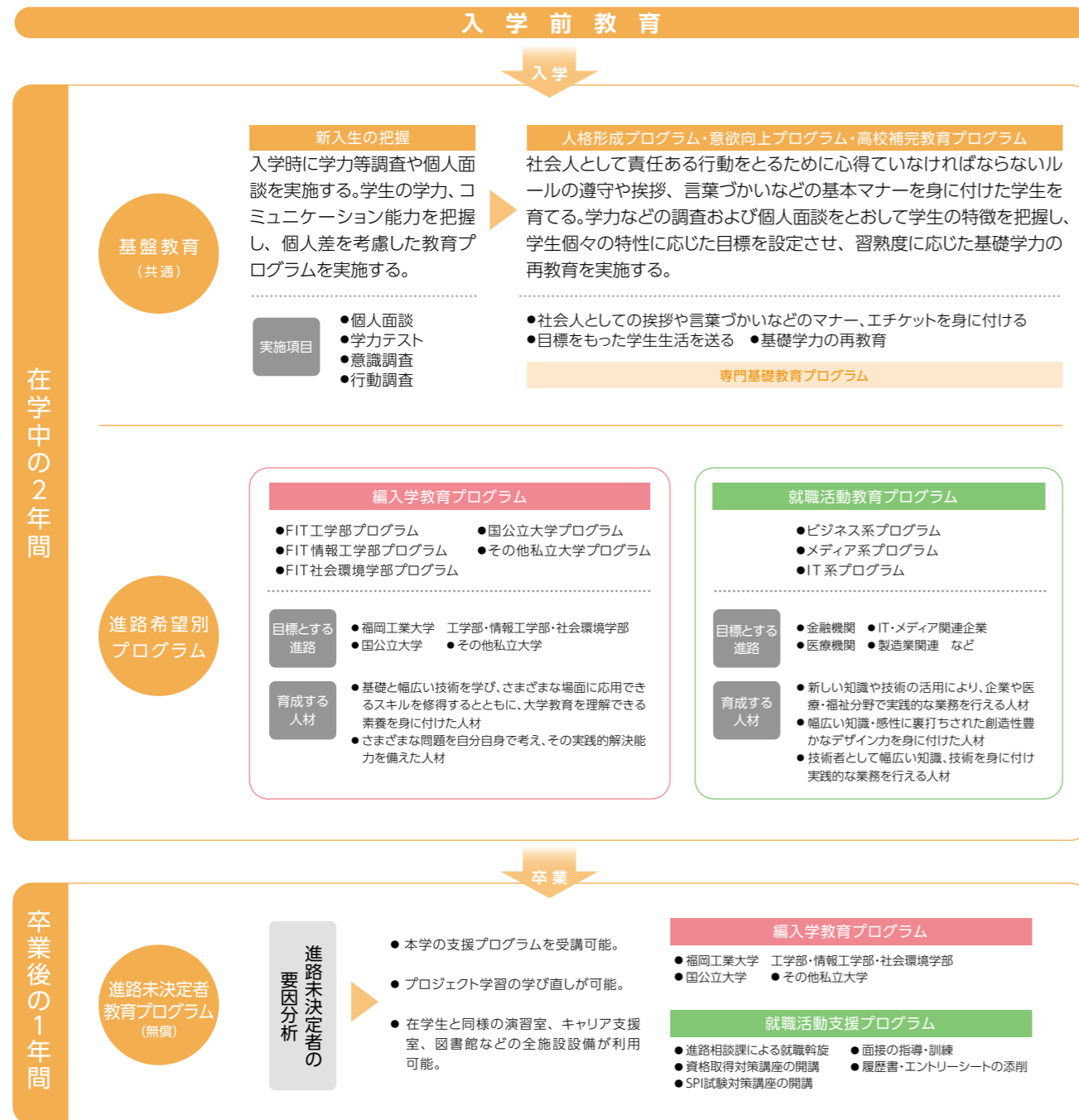
入学前～初年次教育の流れ



全学生の希望進路の実現を目指す「進路保証プログラム」が確実な成果をあげています。

多様な学生一人ひとりの希望に適う進路実現に向けて、
進路希望別プログラム「編入学教育」と「就職活動教育」を整備しています。

進路保証プログラムの概要



編入学教育プログラム

編入決定率
100%

■ 主な編入学先
国立大学 9名
(九州工業大、広島大、鹿児島大、茨城大、群馬大)
福岡工業大 42名 など

4年制大学への編入学実績の推移

	H21	H22	H23	H24	H25
編入希望者	50	53	61	58	63
編入合格者数	50	52	55	57	63
編入合格率	100%	98.1%	90.2%	98.3%	100%



就職活動教育プログラム

内定率
97%

■ 主な就職先
ソフトバンクモバイル(株)、リンテック(株)、コネクシオ(株)、(株)コメリ、(株)再春館製薬所、(株)全日警、八光オートメーション(株) など

就職実績の推移

	H21	H22	H23	H24	H25
就職希望者	43	39	71	74	65
就職者数	39	37	69	72	63
内定率	90.7%	94.9%	97.2%	97.3%	96.9%



6ヶ国14大学との国際交流ネットワークを活用し、
世界で活躍できる人材を育成しています。

国際交流ネットワークを構築し、グローバル教育の基盤を整備しています。

国際交流ネットワーク



主な国際交流事業



オレゴン州立大学との教育・研究連携

オレゴン州立大学・工学部との間でロボティクス分野を中心とした教育・研究連携を実施しています。PBL型教材“Tekbots”によるエンジニアリング教育の他、空気圧ロボットの遠隔実験等、双方の知見を持ち寄り、双方の教育・研究の充実を図っています。



キングモンクット工科大学(タイ)とのサマープログラム(短期研修)

将来の本学大学院入学を促すとともに、日本への理解を深めるための共同教育プログラム。参加学生は、本学の実践的演習型教育プログラムや、日本企業へのインターンシップに参加し、工学の基礎や日本文化への造詣を深めています。



南京理工大学とのダブルディグリー受入のための共同教育プログラム

大学院間でダブルディグリー制度を持つ、南京理工大学との共同プログラムで、本学でできる研究内容や、日本文化への理解を深め、留学を促進するために実施しています。

カリフォルニア州立大学イーストベイ校(CSUEB)との連携により、英語力の向上だけでなく、
人間力の向上、キャリア形成を図る、総合的グローバル人材育成教育を実施しています。

CSUEB におけるグローバル人材育成のステップ (中核的グローバル教育プログラム)

Step.1
1年次

海外英語研修

Intensive English Program

英語に興味がある学生を対象とした
充実の短期研修プログラム

目的

CSUEB付属ALP(英語教育機関)での英語教育の特別レッスンとシリコンバレー企業視察や文化体験を通じての世界観の拡大、およびグローバルマインドの醸成をめざす。

- ・期間…3週間
- ・2013年度参加者数:31名
- ・経費…現地授業料 大学負担
- ・取得可能単位…2単位



Step.2
2年次

ACEプログラム

Advanced Culture and Education Program

日米共同開発教育プログラムでグローバルな
人材育成を目指す

目的

異文化体験や特別講義を通して人生観や価値観を豊かにし、主体的に考える力を養い、キャリアデザインにつなげる。

- ・期間…3週間(前半→CSUEB /後半→福工大)
- ・2013年度参加者数:10名
- ・経費…全額大学負担



Step.3
3年次

FINEプログラム

FIT International Exchange Program

最長1年間の留学ができる
福工大特別留学プログラム

目的

長期留学を通し、多様な価値観を持つ人々と接する中で英語力やコミュニケーション能力を高め、キャリアビジョンを描く。

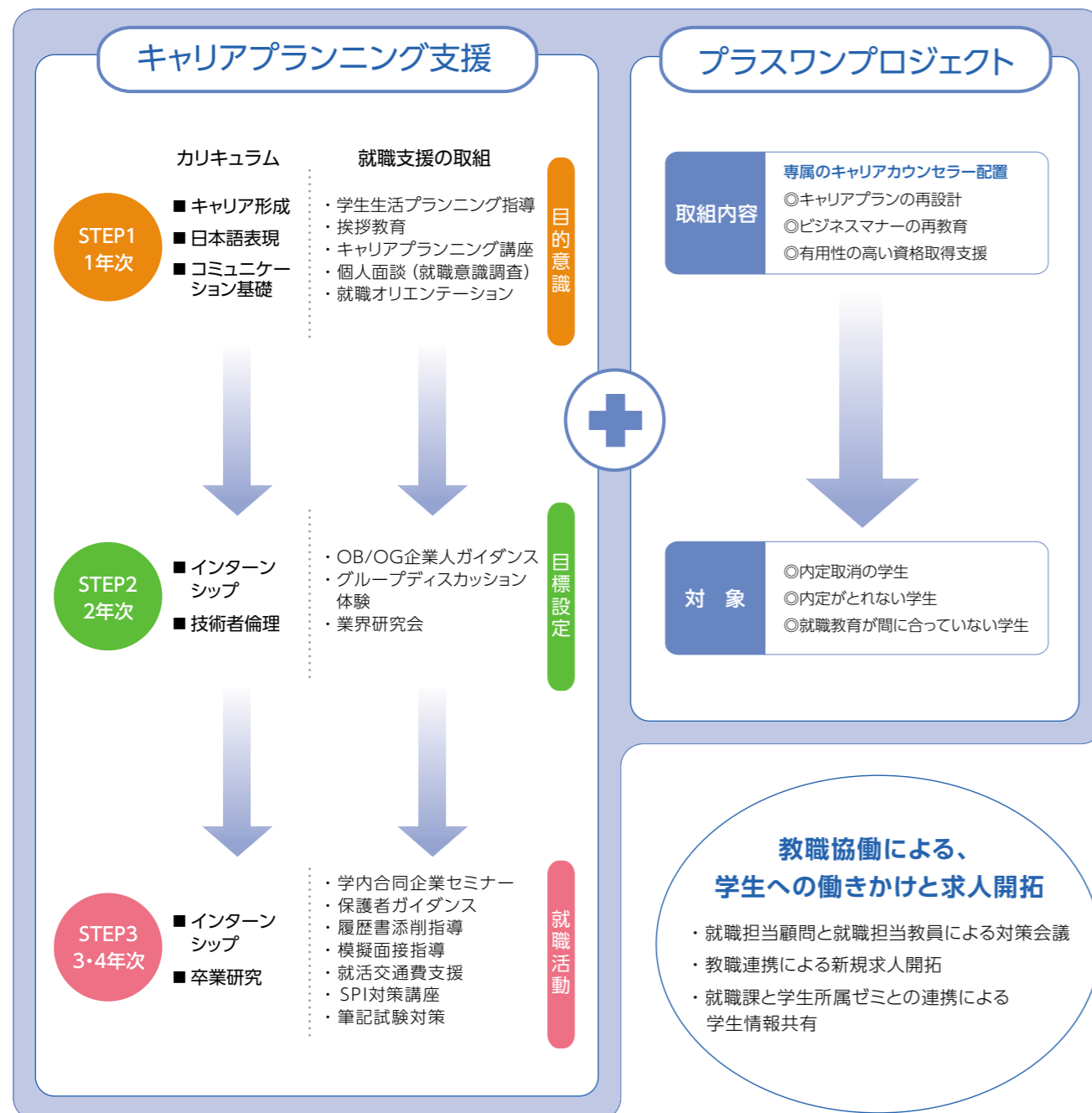
- ・期間…3ヶ月~1年
- ・2013年度参加者数:1名
- ・経費…現地授業料免除
- ・取得可能単位…4単位



就職内定率100%を目指し、初年次から卒業後にいたる、段階・系統的な就職支援体制を整備しています。

就活学生を最後まで「ひとりにしない」「悩ませない」きめ細やかな体制を教職協働で確立しています。

就職支援の概要



主な就職支援の取組

学科別・個別の指導体制



学科別に就職ガイダンスを実施し、各学科の特徴をふまえた的確な指導を実施。希望者全員に個人面談を行ない、その後の個別指導、求人紹介・履歴書添削を丁寧にサポートしています。

学内合同企業セミナー



平成25年度は、5回の学内合同企業セミナーが実施され、累計658社、延べ1,822名の学生が参加し、就職希望学生の約55%が本セミナーで内定を獲得しました。

実践的な就職活動対策



企業の人事部長経験者やキャリアカウンセラーから、模擬面接・エントリーシート添削・グループディスカッションなどのアドバイスを受けることができ、座学だけではなく、実践的な対策とサポートを実施しています。

プラスワンプロジェクト



卒業時までには就職が決まらなかった学生や内定取消になった学生に対し、専属のキャリアカウンセラーを配置し、在学中同様の強力なサポートを継続しています。平成25年度は、7名の既卒学生が内定を獲得しました。

交通費支援



意欲のある学生が、経済的な問題で就職機会を逃さぬよう、関東地区で35,000円・東海地区で28,000円・関西地区で23,000円を上限として交通費の補助を実施しています。

保護者セミナー



学生と教職員に加えて、保護者も含めた三位一体の就職活動の推進を実施。セミナーでは、昨今の就職事情や就職活動期における保護者のあり方などをお話させていただいています。

学生一人ひとりに対して全員面談など、きめ細やかな支援・相談体制を通じ、学生生活をサポートしています。

教職員や学生同士による日常的な修学支援から、専門家による相談体制まで、学生の状況に応じた支援体制を充実させています。



日常的学生支援

新入生に対して、平成21年度から全員面談や入学前後に2度オリエンテーションを実施し、高校からの生活変化に円滑に移行できるよう配慮しています。多欠席や単位取得不足傾向の在学生に対しては、学生サービスセンターの職員が学生と面談を行い、各学科の教員とも連携して生活指導から修学指導へも繋がっています。また、女子学生や留学生のコミュニティ構築なども積極的に教職員がサポートしています。



日常修学支援

クラス担任制度を導入し、学習上の疑問点や悩みを抱える学生に丁寧に対応できる体制を整備しています。また、数学や物理をはじめとした専門基礎科目の学習相談コーナーを設け、学生の留年や退学を防いでいます。この他、オフィスアワーやチューター制度などを利用して問題点をすぐに解消できるよう、学生同士でも相談しやすい環境を整備しています。

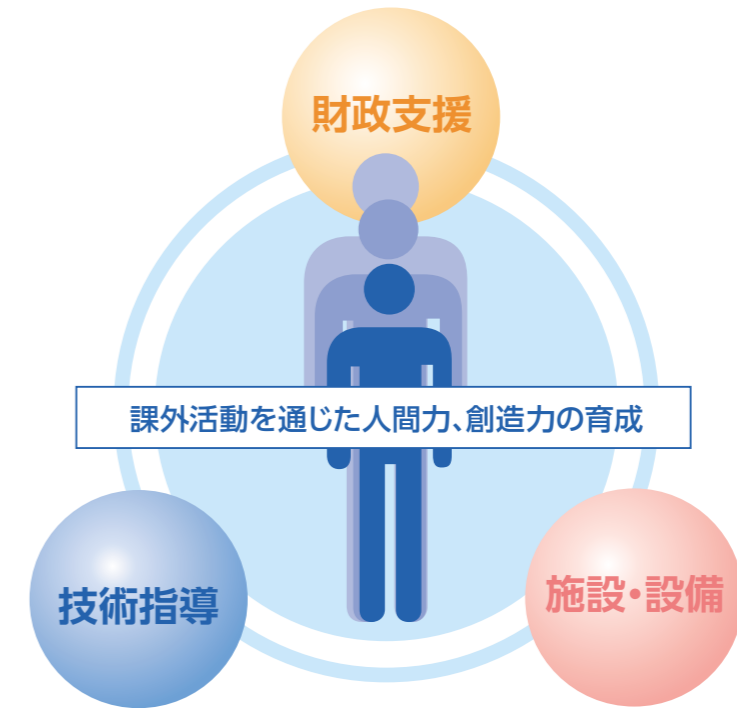


専門的学生支援

実績豊富な臨床心理士2名、キャリアカウンセラー2名を配置し、日常生活で困難に陥った学生に対し、専門家による相談体制を整備しています。人間関係・家庭・就職など、学生の多様な悩みや相談事に専門の見地から適切な対応をしています。相談に訪れた学生が延べ750名(平成25年度)に上るなど、学生の日常生活をしっかりと支えています。

課外活動を豊かな人間力・創造力育成の重要な場として捉え、技術指導をはじめ積極的に支援し、活性化を図っています。

学生の創作プロジェクトや、クラブ・サークル活動の活性化に向けて、多面的な支援で活動環境を整備しています。



モノづくりセンターの学生創作プロジェクト支援

本学の附属施設である、モノづくりセンターでは、ロボコン、ソーラーカー、電気自動車など8つの学生プロジェクトが運営され、全国大会での好成績を目指して、学生達が創作活動に励んでいます。これらのプロジェクトを、学生の創造性、計画性を育成する重要な教育の場として捉え、技術職員によるアドバイスや、製作に必要な工作機械設備の技術教育、活動経費の支援など、活動の充実に向けて支援をしています。



ロボコンプロジェクト



ソーラーカープロジェクト

クラブ・サークル活性化支援

本学は、クラブ・サークル活動を人間関係の構築や人間力育成の重要な場と捉え、活性化に向けた様々な施策を実行しています。例えば、新規サークル立ち上げの際の費用補助や学外施設利用時の利用料補助により、活動による経済的負担を軽減している他、クラブ・サークル活動用の学内施設・設備の整備を進めています。これにより、クラブ・サークル活動への加入学生数が年々増加し、44%の学生が加入しています。



全天候型アイスホッケー場整備

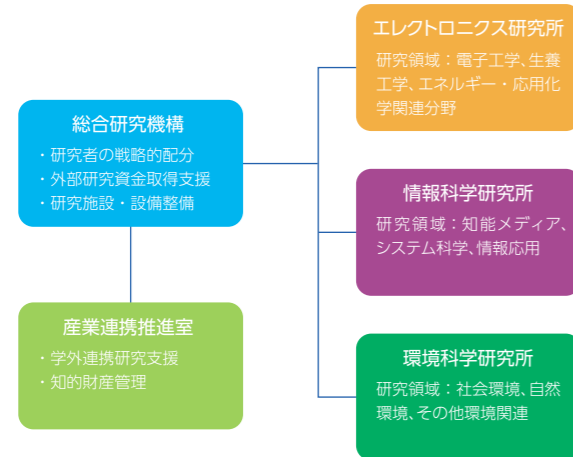


新設の相撲愛好会のために土俵開設

エレクトロニクス、情報科学、環境科学の3つの研究所を設置し、現代社会の課題解決に貢献しています。

研究高度化と学外連携に向けた仕組みを一段と整備し、3つの研究所を中心に社会の課題解決に資する次世代技術の研究を活発に行っています。

総合研究機構の組織と領域

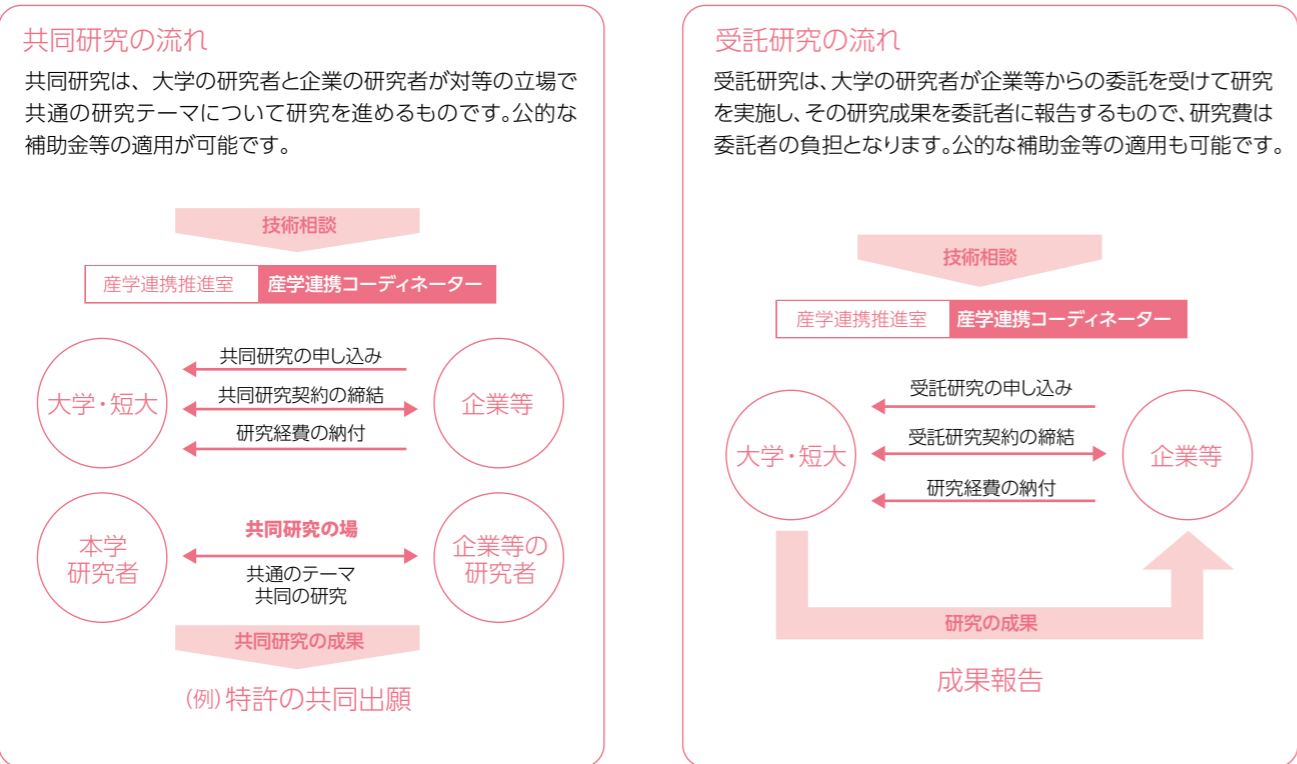


総合研究機構による主な研究支援

若手・新任教員スタートアップ支援
次代を担う若手研究者の研究環境整備のため、資金・設備両面から支援。

学際的(異分野)連携研究支援
学問領域を横断的に推進するため、独創的な研究テーマの形成と実行を支援。

産学連携推進室による学外との共同・受託研究の流れ



エレクトロニクス関連分野

電気・エネルギー

SRモーターを活用した電気自動車や、農業用水等で活用可能な小型発電システム等、環境負荷の少ない次世代エネルギー関連研究が進捗しています。



SRモーターを活用した電気自動車の開発



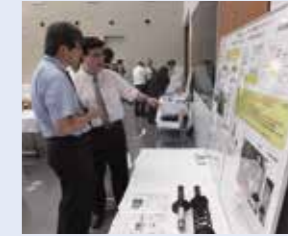
農業用水などでも発電可能なフラッタ水力発電システム

機械システム

自動車等での応用が期待される、アクティブコイダルダンパや、ワイヤ駆動を用いた食事支援ロボット等、機械工学を駆使した機械システム技術の実用化を目指して研究を進めています。



ワイヤ駆動による食事支援ロボット

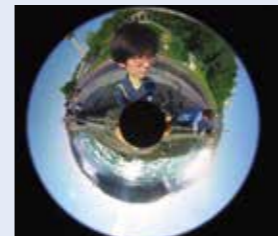


特許を取得し、実用化に向けて研究を進めるコイダルダンパ

情報科学関連分野

知能メディア

先端デバイスでの活用が期待される、先端のVLSI研究や、高度な画像・音声処理技術を用いたメディア・インターフェース研究、人工知能等、情報科学分野の発展に貢献する様々な研究を実施しています



画像処理技術に応用した全方位カメラ



先端半導体の設計が可能なVLSI設計システム

システム科学

ハード技術とソフト技術を融合し、生活支援ロボットを活用した人に優しいロボットタウンの研究や、仮想現実(VR)を活用し、医療用途への応用が期待される模擬触診システム等の研究活動が活性化しています。



VR技術に応用し、医療分野への展開を検討

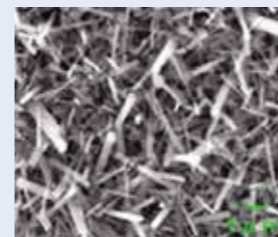


人とロボットの共生を目指す、ロボットタウン構想に向けた車いすロボットの開発

環境科学関連分野

バイオ

微生物を活用して環境汚染物質を除去するバイオフィルターや、バイオメディエーションを活用した環境修復技術等、環境保全に資するバイオテクノロジーの研究を進めています。



環境汚染物質を除去するバイオフィルター



微生物を活用し、環境修復を図るバイオメディエーション

防災・社会環境

情報通信技術を活用し、洪水被害を軽減させる雨水グリッドシステム等の防災研究や、自然環境保全と経済発展を両立させる環境経済学や、環境政策の様々な研究を実施しています。



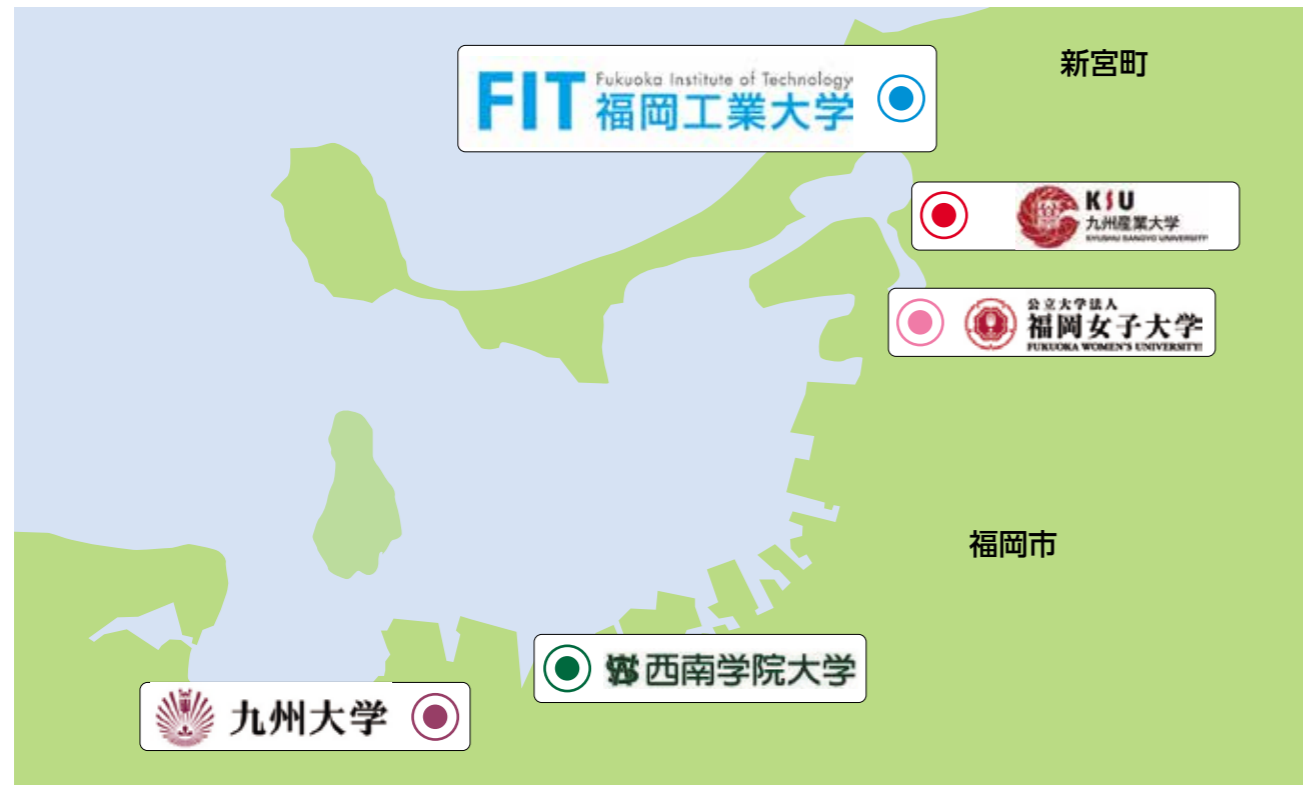
雨水グリッドにクラウド技術を組み合わせて、災害情報を早期に周知する防災システム

地域貢献

本学の教育・研究資源と地域社会ニーズを結びつけ、
地域貢献活動と学生教育を充実させています。

大学・地域連携推進室を設立し、大学間ならびに自治体との連携を深め、地域貢献活動の
ステージを拡大していきます。

本学の大学・地域連携ネットワーク

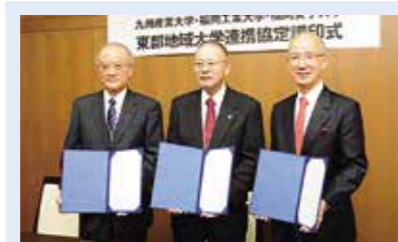


他大学・自治体との主な連携活動



国公立大・コンソーシアム福岡

本学が代表校を務め、九州大学、福岡女子大学、西南学院大学と、地域が抱える環境・エネルギー問題の解決と
そのための人材育成を目的としたコンソーシアムを結
成。単位互換授業を初めとする大学院レベルでの教育
連携の他、地域との協働による研究連携、公開講座や模
擬講座などの地域貢献に取り組みました。(平成20年9
月～平成26年3月)



東部地域大学連携

福岡市東区に拠点を置く九州産業大学、福岡女子大学、
本学の3大学による連携事業。教育・研究活動全般におけ
る交流及び連携を推進し、大学相互の一層の発展と地域
社会の発展に寄与することを目的に、ボランティア活動
を通じた学生交流、3大学の教育・研究資源を活用した公開
講座などを実施しています。(平成23年11月～)

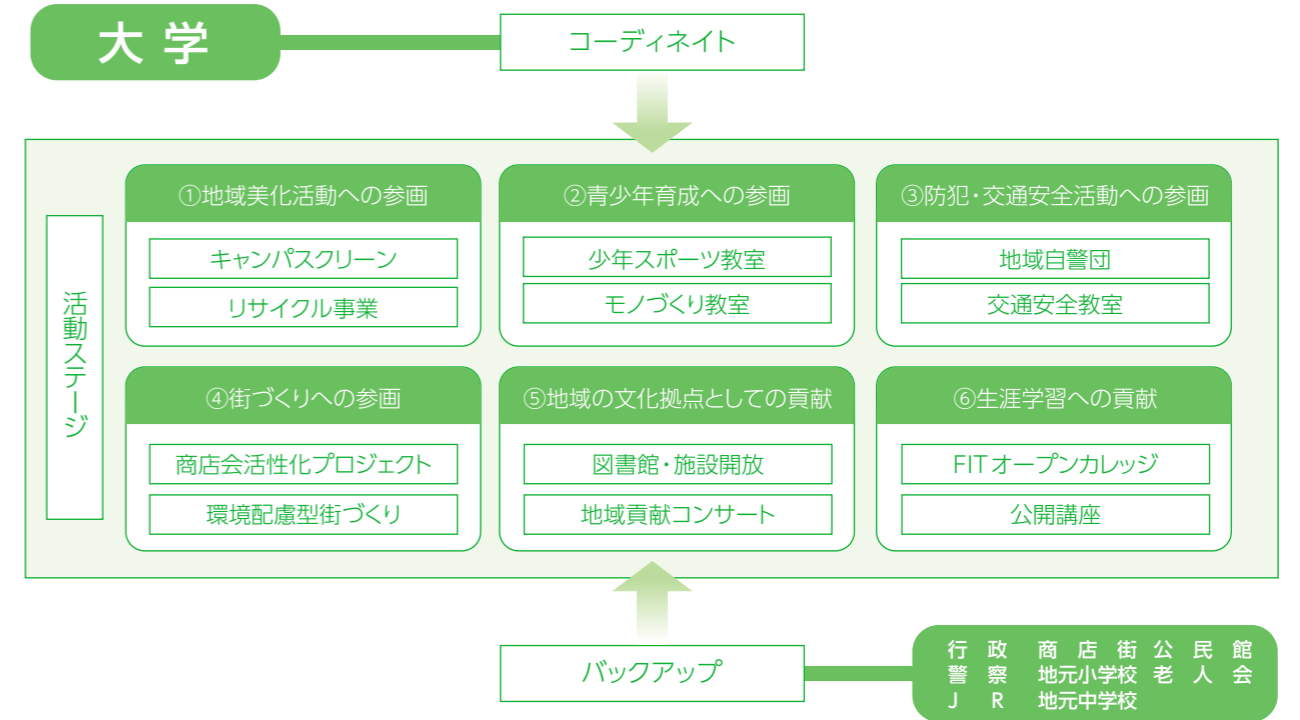


新宮町との包括連携協定

平成26年3月に新宮町と防災、まちづくり、教育・文化・ス
ポーツの振興等に関する包括的連携協定を締結。常設の
連携協議会の下、本学が新宮町の環境保全や防災対策、
地域活性化に貢献を果たす一方、新宮町には学生のイン
ターンシップ受け入れやフィールドワークの機会を提供し
てもらうなど、幅広い活動がスタートしています。

「キャンパスサミット」を核として、地域住民と一体となって、
学生教育と地域活性化に取り組んでいます。

キャンパスサミットを核とした地域貢献活動の領域



主な地域貢献活動事例



①地域美化活動への参画

毎月「キャンパスクリーンデー」を開催し、学生・職員・地
域住民が協力して清掃活動を実施。



②青少年育成への参画

少年野球教室や少年英会話教室など、青少年育成に
貢献。



③防犯・交通安全活動への参画

学生による「コミュニティパトロール隊」を結成し、防犯
ボランティア活動を推進。



④街づくりへの参画

地元商店街活性化プロジェクトや、緑のカーテンづくり
など、学生のアイデアを活用し、地元活性化に貢献。



⑤地域文化拠点としての貢献

毎年12月に世界的ジャズ奏者・MALTAさんを招聘し、本学
吹奏楽団とのコラボレーションによるコンサートを開催。



⑥生涯学習への貢献

300種類以上の文化講座を開講し、多くの地域住民が
身近な文化拠点として本学を活用。

第6次マスタープランに基づき、第Ⅲ期施設・設備整備計画を策定し、ICT環境を駆使したアクティブラーニング環境を整備しています。

社会環境・ニーズの変化に対応するために、中長期施設・設備計画を策定し、着実に計画を具現化させてきました。

マスタープランと施設・設備整備の流れ



第Ⅲ期施設・設備整備計画立案中

次世代教育ニーズ対応型キャンパス整備にトライアルしています。

平成25年度の主な整備事例

アクティブラーニング(学生の主体的学習)拠点としての学習環境整備

Cultivation Site

Cultivation Siteには、アクティブラーニング教室を2室及びラーニングcommonsを設置しました。可変性の高い机や椅子、什器・機器などを利用してPBL(課題解決型学習)やグループ学習を行っています。



Learning Space

従来の休憩スペースをLearning Spaceとして改装しました。学生が長く滞在できるように畳を敷き、携帯やパソコンが充電しやすいように、専用充電器や延長コード等を備えています。



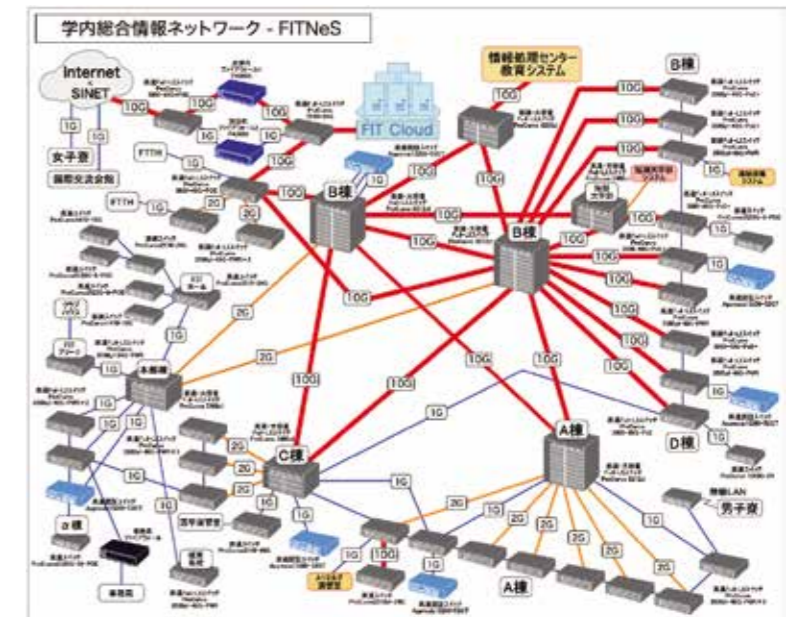
Learning Space(α棟3F)

ICT環境の刷新

教育系情報基盤システムを全面リニューアルしました。これから具体化する、第Ⅲ期施設・設備整備計画を支えるICT基盤が整いました。

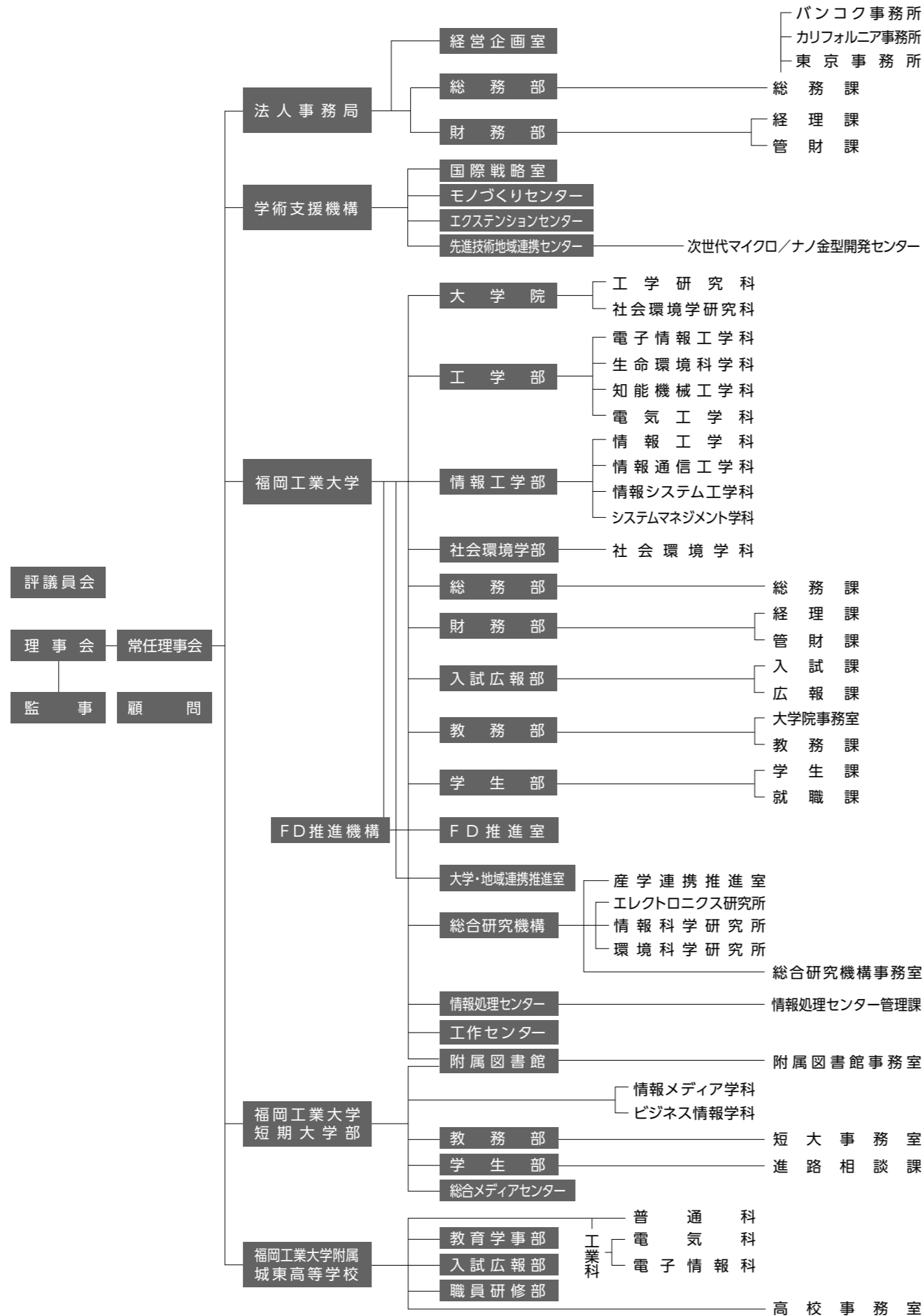


PC演習室のPC・全459台をWindows8・core i7・メモリ8GB搭載のハイエンドPCに刷新。



幹線10gbps、支線1gbpsの超高速ネットワークで学内外が結ばれており、無線lanエリアも充実。学生用に容量25GBのクラウドメールサービスも導入。

組織図 平成26年4月1日現在



役員等の状況

■役員一覧 (平成26年4月1日現在)

職名	氏名	兼職名
理事(理事長)	鶴木 洋二	
理事(常務理事)	大谷 忠彦	
理事	下村 輝夫	大学、短期大学部学長等
理事	園田 義男	附属城東高校長
理事(非常勤)	江頭 公成	
理事(非常勤)	川原 正孝	
理事(非常勤)	正司 博行	
理事(非常勤)	園田 勇	
理事(非常勤)	高田 洋征	
理事(非常勤)	森 紀久雄	
理事(非常勤)	米田 達郎	
監事(非常勤)	吉戒 孝	
監事(非常勤)	中尾 忠徳	

役員区分	定数	実数	選任条項別実数※
理事	9~13	11	1号2名、2号1名、3号8名
監事	2~3	2	
評議員	19~27	24	1号4名、2号3名、3号3名、4号14名

※1号理事：学長・校長、2号理事：評議員、3号理事：学職経験者
1号評議員：学長・校長・教職員、同2号：卒業生、同3号：父母
同4号：学職経験者

職名	氏名	兼職名
最高顧問	麻生 渡	

■部科長一覧 (平成26年4月1日現在)

職名	氏名
工学部長	村山 理一
情報工学部長	西田 茂人
社会環境学部長	李文忠
工学研究科長	倪 宝栄
社会環境学研究科長	坂井 宏光
教務部長	前田 洋
学生部長	安永 誠
図書館長	阿山 光利
情報処理センター長	松尾 敬二
総合研究機構長	下村 輝夫(学長兼務)
入試広報部長	下村 輝夫(学長兼務)

職名	氏名
電子情報工学科長	善明 和一
生命環境科学科長	永田 純一
知能機械工学科長	数仲 馬恋典
電気工学科長	高原 健爾
情報工学科長	徐 海燕
情報通信工学科長	パロリ レオナルド
情報システム工学科長	吉田 耕一
システムマネジメント学科長	赤木 文男
社会環境学科長	池田 賢治
エレクトロニクス研究所長	田中 秀司
情報科学研究所長	山澤 一誠
環境科学研究所長	森山 聡之
産学連携推進室長	下村 輝夫(学長兼務)

教職員数

■教員数 (平成26年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学									福岡工業大学短期大学部					
	工学部			情報工学部			社会環境学部			情報メディア学科			ビジネス情報学科		
学部・学科名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
男女別															
教授	35	1	36	25	2	27	16	0	16	5	0	5	2	0	2
准教授	15	2	17	20	0	20	6	2	8	3	0	3	2	2	4
講師	0	0	0	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
助教	4	3	7	5	1	6	3	3	6	1	0	1	0	0	0
合計	54	6	60	53	3	56	25	5	30	9	0	9	4	2	6

■職員数 (平成26年5月1日現在)

学校名	福岡工業大学			福岡工業大学短期大学部		
男女別	男	女	計	男	女	計
専任職員	58	13	71	2	2	4
嘱託職員	14	28	42	1	3	4
契約・派遣職員	0	28	28	0	1	1
合計	72	69	141	3	6	9

設置学部・学科/専攻概要

資格について
 ○/指定科目の単位を取得し、在学中または卒業と同時に取得できる資格
 ●/指定科目の単位を取得し、実務経験を修得して取得できる資格
 ◎/指定科目の単位を取得し、一部の学科試験が免除される資格
 ■/学科で取得を支援している資格
 □/カリキュラムの特色を生かした比較取得しやすい資格

設置校	学部・研究科名	学科名	設置コース	教育研究上の目的	教員構成(人)*	取得可能学位	取得可能な教員免許	取得支援を実施している資格※	
大学	工学部	電子情報工学科	電子情報工学先端コース 電子情報工学基盤コース	現代社会において、科学技術者は、科学技術への貢献はもとより、社会人として自立し、広い視野に立ち柔軟な発想を行えることが求められている。本学科は、電子技術と情報技術が融合した技術分野において、このような要請に応えることができる実践型の人材の養成を目的とする。	教授 9 准教授 2 助教 2	学士 (工学)	高等学校教諭一種免許状(工業)	■基本情報技術者 ■ITパスポート ■MOS ■第一級陸上無線技術士 ■第一級陸上特殊無線技術士	
		生命環境科学科	環境エネルギー・物質化学系 生命化学・食品化学系	地球の様々な環境問題が深刻化する今日、環境の管理、保全、改善と修復の基本理念を理解し、物理・化学的、及び生物学的アプローチ等の多様な先端技術を用いて、問題を解決する能力を持つ自立した物質系・生物系技術者の人材の養成を目的とする。	教授 8 准教授 5		高等学校教諭一種免許状(工業、理科) 中学校教諭一種免許状(理科)	◎食品衛生管理者・食品衛生監視員 ◎毒物劇物取扱責任者 ◎公害防止管理者(水質) ■バイオ技術認定 ■危険物取扱者(甲・乙) ■環境測定分析士	
		知能機械工学科	知能機械設計コース 知能機械創成コース (JABEE認定)	情報技術と生産技術を融合した知能機械が主流となった機械分野において、基礎及び専門技術に関する知識と応用力を身につけるとともに、それらを駆使したデザイン能力とコミュニケーション能力を有し、技術者倫理をもってグローバルな活躍ができる人材の養成を目的とする。	教授 9 准教授 5 助教 2		高等学校教諭一種免許状(工業)	◎修習技術者(→技術士補) ■CAD利用技術者 ■機械設計技術者 ■機械保全技能士検定	
		電気工学科	電気総合エンジニアコース 電気開発エンジニアコース	日々進歩する電気・電子・情報工学の技術を理解し、習得するための素養と専門知識及び技術を身につけ、国際感覚と倫理観を有するとともに、地域産業のニーズも理解し、地域的また国際的連携の両方を意識して活躍できるグローバルな技術人材の養成を目的とする。	教授 6 准教授 5 助教 2		高等学校教諭一種免許状(工業)	●電気主任技術者(第一種) ■電気主任技術者(第三種) ■電気工事士	
	情報工学部	情報工学科		コンピュータのソフトウェア・ハードウェアの基礎及び応用を教授研究し、プログラミングに習熟させるとともに、インターネットや人工知能、知能ロボット、自然言語処理、画像処理、データベース、マルチメディア、CG、システムLSIなどの最先端のコンピュータ技術・応用技術を持つ専門的職業人及び教育研究者の人材の養成を目的とする。	教授 10 准教授 4 助教 3 講師 1	学士 (情報工学)	高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	■ITパスポート ■基本情報技術者 ■MOS ■LPIC ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験	
		情報通信工学科	情報ネットワーク工学コース 情報通信先端工学コース (JABEE認定)	今日の情報通信関連技術は、あらゆる産業分野における基幹技術としての影響力を持つようになり、社会生活の中に深く関係している。このように情報通信工学の裾野が限りなく広がり、技術的な可能性が満ち溢れる世界で、獨創性を発揮し、多様化する先端技術を開拓できる技術者及び情報通信関連分野の研究能力を有する人材の養成を目的とする。	教授 7 准教授 5		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	◎修習技術者(→技術士補) ○/■第一級陸上無線技術士 ◎第一級陸上特殊無線技術士 ○/■電気通信主任技術者 ◎第三級海上特殊無線技術士 ○/■工事担任者(ネットワーク接続技術者) ■MOS ■ITパスポート ■LPIC ■基本情報技術者 ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験	
		情報システム工学科	情報システム設計コース 情報システム技術コース (JABEE認定)	情報処理基盤技術、情報ネットワーク、システムLSI、知能情報処理、ロボット工学、制御工学などの専門知識に加え、技術者倫理、高いコミュニケーション能力、エンジニアリングデザイン能力、計画実行力、生涯学習能力を身につけさせるための教育を行い、国際的に活躍できる情報システム技術者の人材の養成を目的とする。	教授 4 准教授 7 講師 2		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	◎修習技術者(→技術士補) ■基本情報技術者 ■MOS ■LPIC ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験	
		システムマネジメント学科		高度に情報化、国際化が進む現代社会において、企業の生産管理技術と情報管理技術について、経営、生産、メディアの観点から基礎的な素養を身につける教育を行い、それらの知識に裏付けされた人間哲学に基づいてシステムのマネジメントを行える人材の養成を目的とする。	教授 4 准教授 4 助教 2		高等学校教諭一種免許状(情報、数学) 中学校教諭一種免許状(数学)	■ITパスポート ■基本情報技術者 ■MOS ■LPIC ■CCNA ■Webクリエイター能力認定試験	
	社会環境部	社会環境学科		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを理解した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる実践型の人材の養成を目的とする。	教授 17 准教授 8 助教 5	学士 (社会環境学)	高等学校教諭一種免許状(公民) 中学校教諭一種免許状(社会)	■環境計量士 ■環境社会検定試験(eco検定) ■環境管理士 ■MOS ■ピオトップ管理士 ■3R低炭素社会検定 ■日商簿記検定	
	大学院	工学研究科	物質生産システム工学専攻 (博士後期課程)		物質生産システム工学専攻は、電子物性工学、機能材料応用工学、エネルギーシステム工学及び設計生産システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教授 20 准教授 1	博士 (工学)		
			知能情報システム工学専攻 (博士後期課程)		知能情報システム工学専攻は、知能情報工学、情報伝送工学、知的メディア工学及び情報制御システム工学分野において研究者として自立して研究活動を行い、又はその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力及びその基盤となる豊かな学識を養う。	教授 17 准教授 1			
			電子情報工学専攻		現代社会は、コンピュータを先頭とした電子情報技術が著しく発達し、広く普及している社会である。本専攻では、広い視野に立って、電子情報工学の理論及び応用を教授、研究し、高度な専門知識を背景に、獨創的な研究開発能力を身につけた技術者を養成することを目的とする。	教授 8 准教授 2 助教 1	修士 (工学)	高等学校教諭専修免許状(工業)	
生命環境科学専攻				本学の建学の綱領に基づき、学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥をきわめ、科学技術や社会の進歩向上に寄与する人材を育成することを目的とする。具体的に本専攻では、広い視野に立って精深な学識を授け、物質工学及び生物工学を中心とした専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を培うことを目的とする。	教授 8 准教授 4	高等学校教諭専修免許状(理科)			
知能機械工学専攻				機械工学は、ナノ・マイクロテクノロジーから巨大システムまで基盤となる技術を開拓していく学問分野です。機械工学はそれ自身の高度化、先進化及び微細化とともに電子情報技術の飛躍的な発達により機械の知能化が進んでいます。本専攻では機械工学の基礎分野の知識を十分修得した上で、さらに発展・進化させるための獨創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 10 准教授 1 助教 1	高等学校教諭専修免許状(工業)			
電気工学専攻				本専攻は電気系工学・技術の分野において活躍できる、高度の問題解決能力と研究開発能力を備えた技術者を育成することを教育の目的とする。このため工学部電気系学科修得課程の基礎知識を有する学生を対象に、進歩を続ける技術に長期的に対応して行けるよう電気関連主要分野の深い基礎理論を講究するとともに、並行してこの分野の先端的研究テーマについての研究に取り組み創造的対応能力を培う。	教授 7 准教授 4 助教 1	高等学校教諭専修免許状(工業)			
情報工学専攻				人工知能や集積回路、マルチメディアや画像処理、データベースやソフトウェア開発などの情報工学分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための獨創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 10 准教授 2	高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)			
情報通信工学専攻				携帯電話や無線LAN、光ファイバ伝送などの情報伝送技術やインターネットなどの情報ネットワークの分野で高度な専門知識や技術を修得するとともに、さらに発展・進化させるための獨創的な研究・開発能力を養成することを目的とする。	教授 7 准教授 4	高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)			
管理工学専攻		人間社会に関わるあらゆるものをシステムとしてとらえて、それらのシステムから得られる情報を利用して、システムの調査、分析、設計、評価が必要に応じて制御設計ができるようにする。とくに、生産管理システム、医用生体システム、生体情報システム、ビジネスシステム、視覚情報システム、一般物理システム、情報メディアに関して、教育研究を行うことを目的とする。	教授 7 准教授 8	高等学校教諭専修免許状(数学) 中学校教諭専修免許状(数学)					
社会環境研究科	社会環境学専攻		環境に関わる諸問題に関して主として社会科学及び人文科学の立場からアプローチし、個人・企業・社会全体の仕組みを研究する能力を醸成した上で、環境調和型の社会実現に貢献することのできる高度な専門性が求められる職業を担うための能力を培うことを目的とする。	教授 8 准教授 4 助教 1	修士 (社会環境学)				
短大	短期大学部	情報メディア学科		情報メディア学科は、コンピュータの基礎および応用技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として情報技術、情報メディアおよびエレクトロニクスの各分野で即戦力として働ける技術者を養成することを目的とする。	教授 5 准教授 3 助教 1	短期大学士		■基本情報技術者試験 ■応用情報技術者試験 ■ITパスポート試験 ■秘書検定 ■日商PC検定 ■建築CAD検定 ■CAD利用技術者試験 ■実用英語技能検定 ■色彩検定 ■医療事務 ■CGエンジニア検定 ■マルチメディア検定 ■日本漢字能力検定 ■日商簿記検定 ■福祉住環境コーディネーター ■CGクリエイター検定 ■ドットコムマスター ■TOEIC	
		ビジネス情報学科		ビジネス情報学科は、現代の情報化社会で必要とされる情報技術について、演習を中心とした科目を通して教授するとともに、社会人として必要な一般常識やマナーなども習得させ、心豊かな社会人として電子ビジネス、福祉・医療あるいは小売業などの各種産業の事務部門や管理・運営部門で活躍できる人材を養成することを目的とする。	教授 2 准教授 4				

※平成26年4月1日現在

学園概要
 平成25年度ハイライト
 教育活動
 学生支援
 研究活動
 地域貢献
 施設・設備
 データ集

学費・徴収金

■大学

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
工学部・情報工学部	1年次	220,000	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	61,300	1,428,300
	2年次以降	-	780,000	250,000	88,000	10,000	19,000	-	1,147,000
社会環境学部	1年次	220,000	630,000	150,000	-	10,000	19,000	61,300	1,090,300
	2年次以降	-	630,000	150,000	-	10,000	19,000	-	809,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費28,000円、後援会費20,000円、学生教育研究災害傷害保険料3,300円、アルバム代10,000円 部分は前・後期分納 ※教科書代が別途必要です。

■短期大学部

(単位:円)

学部	学年	入学金	授業料	施設・設備費	実験実習費	図書費	学生厚生費	学生諸費※	合計
情報メディア学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000
ビジネス情報学科	1年次	170,000	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	27,750	1,065,750
	2年次以降	-	590,000	160,000	98,000	5,000	15,000	-	868,000

※学生諸費の内訳:学生自治会費10,000円、後援会費6,000円、学生教育研究災害傷害保険料1,750円、アルバム代10,000円 部分は前・後期分納 ※教科書代が別途必要です。

奨学制度

■独自奨学金

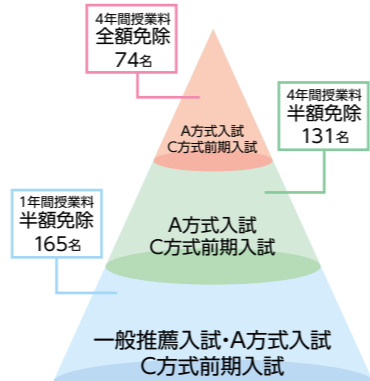
	学業特別奨学金	特技特別奨学金	経済的理由による特別奨学金
対象者	【2～4年次生】 学科から推薦された成績優秀者	【1年次生】 入試(A方式、C方式前期、 一般推薦)上位合格者	スポーツ・音楽の強化クラブ から推薦された者
採用人数	各学年30名以内	-	若干名
給付期間	1年間	4年間または1年間	1年間(最大4年間)
金額	授業料の半額免除	授業料の全額または半額免除	授業料の全額または半額と 施設設備費免除
返済	不要	不要	不要
備考	学業成績が一定に満たない場合等は取消しとなる		-

■同窓会育英金

対象者	2年次生以上及び院生で 勉学意欲があり、経済的に 修学が困難な者
採用人数	7名
給付期間	1年間(最大2年間)
金額	授業料の半額免除
返済	不要

■私費外国人留学生に対する減免措置

対象者	私費外国人留学生で一定の 成績を修めている者 【2～4年次生】
給付期間	1年間
金額	授業料の半額免除
返済	不要
備考	協定校からの留学生は 1年次生から対象となる



【入試による学業奨学制度の
対象者数(平成26年度入試)】

■奨学金の受給状況

奨学金の種類	奨学金の内容	H25受給者数
日本学生支援機構奨学金	第一種奨学金(無利子貸与)、第二種奨学金(有利子貸与)	2,803
地方公共団体奨学金	北九州市教育委員会奨学金、各県、市による奨学金(一部給付あり)など	37
その他奨学金	交通遺児育英会奨学金、北田奨学会記念財団奨学金など	12

課外活動

■平成25年度クラブ・サークル加入者数

クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数	クラブ・サークル名	部員数
硬式野球部	88	アクションサッカー愛好会	44	自動車工学研究部	18
女子柔道部	4	硬式テニス愛好会	33	音響部	31
ラグビー部	54	サイクリング愛好会	15	写真部	30
アーチェリー部	23	サッカー愛好会	40	情報技術研究部	79
合気道部	18	サバイバルスポーツ愛好会	18	環境サークルオアシス部	33
アイスホッケー部	18	男子柔道愛好会	10	フォークソング研究部	70
弓道部	39	相撲愛好会	12	モダンアート部	44
剣道部	16	ダーツ&ビリヤード同好会	13	ロック部	35
硬式テニス部	16	ダンス同好会	29	アカペラ愛好会	30
サッカー部	19	トライアスロン愛好会	12	アロマセラピー愛好会	4
準硬式野球部	42	軟式野球愛好会	35	Audio Oriented Rock(A.O.R.)愛好会	7
水泳競技部	18	バスケットボール愛好会	65	サブカルチャー愛好会	15
ソフトテニス部	13	パワーリフティング愛好会	10	天体愛好会	20
ソフトボール部	25	ハンドボール同好会	9	国際交流サークル愛好会	106
卓球部	19	フットサル愛好会	49	ボードゲーム愛好会	12
テコンドー部	20	フットサル愛好会(ファンタジア)	11	保健愛好会	16
バスケットボール部	21	楯円球愛好会	22	マルチメディアコミュニケーション同好会	29
バドミントン部	68	吹奏楽団	69	料理・スイーツ研究愛好会	24
バレーボール部	14	オールラウンドミュージック部	66		
陸上競技部	6	音楽研究部	93		

加入者総計1,799名

平成25年度資格取得実績

■教員免許取得者数

免許種類	科目	取得者数
高校専修	理科	2
	工業	2

免許種類	科目	取得者数
高校一種	数学	10
	理科	9
	工業	5
	情報	5
	公民	8

免許種類	科目	取得者数
中学校一種	数学	4
	理科	6
	社会	5

■資格取得実績・大学

資格名称	合格者数
技術士(補)	26
パイオ技術者認定※	5
危険物取扱者免状乙種	9
CAD 利用技術者試験2級	2
機械保全3級	16
機械加工3級	3
第三種電気主任技術者(科目合格)	2
電気通信主任技術者	1
第一級陸上無線技術士	1
第一級陸上無線技術士(科目合格)	6
第一級陸上特殊無線技士	7
工事担任者	1
ITパスポート	45
基本情報技術者	25

※上級・中級の合計

資格名称	合格者数
ネットワークスペシャリスト試験	2
応用情報技術者	4
Webクリエイター上級	24
CCNA	5
ICND1(CCENT)	1
eco 検定	23
CG※	32
MOS 試験	615
色彩検定3級	5
社会環境学検定(エコ検定)	23
日商簿記検定2級	5
日商簿記検定3級	28
秘書検定2級	15
秘書検定3級	23

■資格取得実績・短大

資格名称	合格者数
CG エンジニア ベーシック	13
IT パスポート	3
MOS(Word)	4
Web デザイナー ベーシック	1
Web 実務士	3
ビジネス実務士	1
マルチメディア ベーシック	8
医科第3級医療事務技能検定	11
漢字検定2級	2
漢字検定準2級	2
建築CAD検定2級	1
建築CAD検定3級	22
上級情報処理士	6
情報処理士	1
日商PC検定(データ活用)3級	1
日商PC検定(データ活用)Basic	10
日商PC検定(文書作成)2級	1
日商PC検定(文書作成)3級	11
日商PC検定(文書作成)Basic	28
日本語検定準3級	4
秘書検定2級	7
秘書検定3級	6
秘書検定準1級	1
日商簿記検定2級	1
日商簿記検定3級	10

国際交流

国際交流協定校一覧

国名	大学名	締結年	協定内容					平成25年度交流学生数	
			教育研究 活動交流	学生交流	教育・研究者 交流	事務職員 交流	留学生 募集戦略	本学からの 派遣	協定校 学生の受入
米国	カリフォルニア州立大学イーストベイ校	2003	○	○	○	○	-	42	60
	オレゴン州立大学工学部	2002	○	○	○	-	-	-	-
	フットヒルカレッジ	1992	○	○	○	-	-	-	-
韓国	慶星大学校	1981	○	○	○	○	-	3	4
	亜州大学校	1990	○	○	○	○	-	-	-
	啓明大学校工学部	2009	○	○	○	-	-	-	-
中国	大連理工大学	1988	○	○	○	-	-	-	5
	南京理工大学	1993	○	○	○	○	-	-	18
	青島科技大学	2008	○	○	○	○	○	-	3
	北華大学	2008	○	○	○	○	○	-	2
タイ	キングモンクット工科大学	2008	○	○	○	○	○	-	33
	チュラロンコン大学理学部	2009	○	○	○	○	-	-	-
豪州	フェデレーション大学	2001	○	○	○	-	-	-	-
アルバニア	ティラナ工科大学	2009	○	○	○	-	-	-	-

研究活動

外部研究資金の取得実績推移

(単位:千円)

		H21	H22	H23	H24	H25
共同研究	金額	27,515	17,275	14,219	6,375	11,083
	件数	17	19	14	11	15
受託研究	金額	45,306	17,003	16,116	6,535	13,113
	件数	9	8	8	6	9
奨学寄付金	金額	4,450	7,467	3,500	5,133	500
	件数	7	6	5	5	1
外部助成金等	金額	0	475	1,566	5,439	23,570
	件数	4	3	2	5	10
合計	金額	77,271	42,220	35,401	23,482	48,266
	件数	37	36	29	27	35

教育関係補助金の交付状況

私立大学等経常費補助金の交付実績推移

(単位:千円)

区分	H21※	H22	H23	H24	H25
一般補助	0	350,247	531,328	457,753	520,271
特別補助	0	382,202	99,322	94,815	96,906
合計	0	732,449	630,650	552,568	617,177

※平成21年度は定員超過のため交付辞退

平成25年度文部科学省補助金交付実績

(単位:千円)

文科省補助区分	事業名	交付額
産業界のニーズに対応した教育改善・充実体制整備事業	地域力を生む自律的職業人育成プロジェクト	21,898
	産学協働による主体的学修の確立と中核的・中堅職業人の育成	6,817
大学間連携共同教育推進事業	未来像を描く電気エネルギー分野における実践的人材の育成	5,170
	先端計測技術計測センター	29,666
私立学校施設整備費補助金、私立大学等研究設備整備費等補助金	車いす等障がい者支援のための玄関自動ドア化工事	5,664
	情報工学実験Ⅱにおける実験教材ロボットの更新	4,991
	次世代半導体デバイス技術者養成に対応する最新膜厚測定設備の整備	4,238
	情報処理センター新教育システム	72,731
	B棟・D棟ネットワークおよび情報コンセントのリプレース	41,321
	マルチメディアを活用した授業理解度向上のための設備拡充事業	5,876
	短期大学部新教育システム	11,352
	合計	209,724

附属施設

図書館蔵書数 (平成26年5月1日現在) (単位:冊)

図書区分	蔵書数
和書	229,965
洋書	65,804
学術雑誌	1,742
AV資料	3,341
合計	300,852

図書館利用者数推移

(単位:名)

利用者区分	H21	H22	H23	H24	H25
学内利用者	38,518	42,988	40,480	39,899	39,632
学外利用者	6,186	7,131	5,719	2,979	6,118
合計	44,704	50,119	46,199	42,878	45,750

情報処理センター利用者数推移

(単位:名)

H21	H22	H23	H24	H25
34,325	35,195	23,783	33,202	31,878

平成25年度エクステンションセンター受講者数

講座名	講座数	受講者数
資格取得支援講座	41	464
情報関連講座	36	132
文化教養講座	224	1,568
FIT講座	5	127
合計	306	2,291

平成25年度モノづくりセンター利用者数

講座名	利用者数
学生プロジェクト	6,596
研究利用	375
一般利用	3,074
合計	10,045

校地・校舎

校地・校舎概要

建物名	主な設備、用途	延床面積(m ²)	建築年
A棟	グリーンルーム、講義室27、演習室14、実験室16、研究室79、卒研室34	18,040	平成13年
B棟	学生サービスセンター、情報処理センター、レストラン、保健室、カウンセリング室、講義室19、演習室11、実験室11、研究室44、卒研室22	18,842	平成16年
C棟	地下ホール(収容人数300人)、学生ホール、レストラン、講義室8、実験室6、研究室27、卒研室23	10,303	平成3年
D棟	工作センター、講義室13、実験室11、研究室25、卒研室23	8,504	平成16年
α棟	モノづくりセンター、キャリアサポートセンター、多目的ホール(収容人数200人)、自習室	1,750	平成11年
本部棟	図書館、エクステンションセンター、フレッシュマンスクール、次世代マイクロ/ナノ金型開発センター、音とモノづくりの歴史資料館、事務局	12,735	昭和61年
FITアリーナ	シンフォニーホール(収容人数2,400人)、運動施設	5,470	平成12年
FITホール	多目的ホール(収容人数1,000人)、会議室	3,612	平成23年
坦心寮	男子寮(部屋数79、収容人数308人)	6,556	平成15年
コスモス寮	女子寮(部屋数107、収容人数141人)	3,833	平成5年
国際交流会館	留学生寮(部屋数27、収容人数50人)	1,102	平成4年
和臼グラウンド	高校部活動用地他	32,297	昭和37年
新宮総合グラウンド	野球場、ラグビー場、アーチェリー場、他運動施設	40,655	昭和62年
塩浜総合グラウンド	野球場、室内練習場、ソフトボール場	38,188	平成24年
FITセミナーハウス	課外研修・宿泊施設	1,310	平成24年

財務状況

■資金収支計算書 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

収入の部 (単位:千円)	
科目	決算額
学生生徒等納付金収入	6,031,818
手数料収入	153,899
寄付金収入	51,084
補助金収入	1,448,595
資産運用収入	152,185
事業収入	169,816
雑収入	370,598
前受金収入	1,840,521
その他の収入	317,490
資金収入調整勘定	△ 2,142,986
前年度繰越支払資金	1,976,652
収入の部合計	10,369,671

支出の部	
科目	決算額
人件費支出	4,782,956
教育研究経費支出	1,858,839
管理経費支出	698,324
借入金等返済支出	60,000
施設関係支出	255,674
設備関係支出	612,663
資産運用支出	100,000
その他の支出	232,740
資金支出調整勘定	△ 227,677
次年度繰越支払資金	1,996,151
支出の部合計	10,369,671

■貸借対照表 (平成26年3月31日現在)

資産の部 (単位:千円)	
科目	平成25年度末残高
固定資産	31,801,069
有形固定資産	21,176,298
土地	3,205,286
建物	13,678,157
構築物	1,284,934
教育研究用機器備品	1,833,726
その他の機器備品	42,815
図書	1,088,501
車両	38,862
建設仮勘定	4,018
その他の固定資産	10,624,770
借地権	19,805
電話加入権	5,157
施設利用権	15,058
預託金	24,809
保証金	450
長期有価証券	2,335,890
退職給与引当特定資産	1,600,000
施設拡充引当特定資産	4,623,600
教育設備引当特定資産	500,000
第3号基本金引当特定資産	1,500,000
流動資産	2,506,945
現金預金	1,996,151
その他流動資産	510,794
資産の部合計	34,308,014

減価償却額の累計額の合計額 10,577,184

■消費収支計算書 (平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

消費収入の部 (単位:千円)	
科目	決算額
学生生徒等納付金	6,031,818
手数料	153,899
寄付金	134,476
補助金	1,448,595
資産運用収入	149,349
事業収入	169,816
雑収入	370,735
帰属収入合計	8,458,687
基本金組入額合計	△ 745,593
消費収入の部合計	7,713,094

消費支出の部	
科目	決算額
人件費	4,773,246
教育研究経費	2,758,432
管理経費	764,898
資産処分差額	4,246
消費支出の部合計	8,300,821
当年度消費支出超過額	587,728
前年度繰越消費支出超過額	3,046,370
基本金取崩額	0
翌年度繰越消費支出超過額	3,634,098

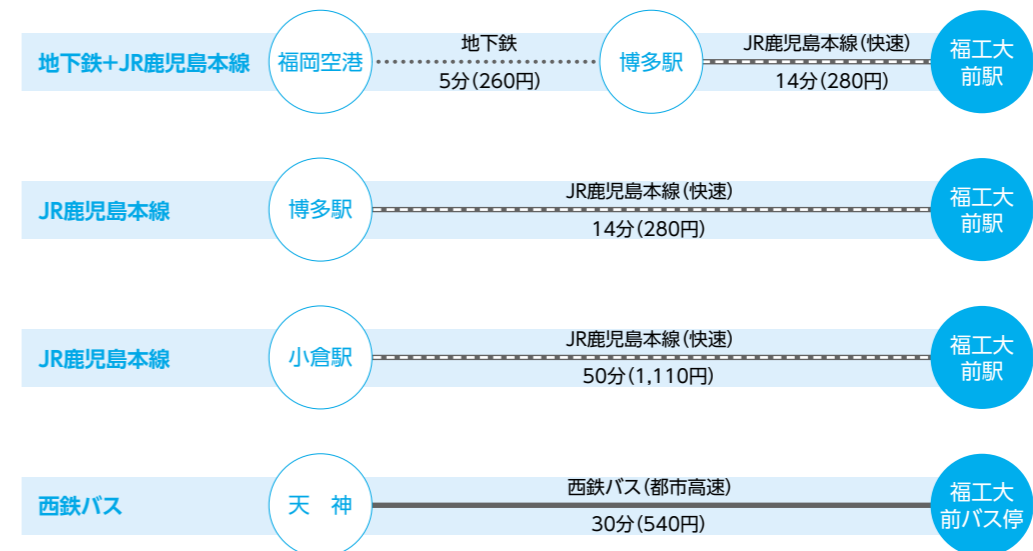
帰属収支差額 157,866

負債の部 (単位:千円)	
科目	平成25年度末残高
固定負債	1,726,948
長期借入金	60,000
退職給与引当金	1,639,827
長期未払金	27,122
流動負債	2,433,595
短期借入金	60,000
未払金	208,255
前受金	1,840,521
預り金	302,309
仮受金	22,510
負債の部合計	4,160,543

基本金の部	
科目	本年度末
第1号基本金	31,777,569
第3号基本金	1,500,000
第4号基本金	504,000
基本金の部合計	33,781,569

消費収支差額の部	
科目	本年度末
翌年度繰越消費支出超過額	3,634,098
消費収支差額の部合計	△ 3,634,098

負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計 34,308,014



※乗用車の場合…国道3号線から国道495号線へ進み和白方面へ

福岡工業大学

平成25年度

教育・研究活動報告書

取組成果のご報告

編集/福岡工業大学 IRプロジェクト

発行/平成26年6月

福岡工業大学

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30番1号 TEL: 092-606-0619 FAX: 092-606-8923



For all the students

～すべての学生生徒のために～

FIT Fukuoka Institute of Technology
福岡工業大学

工学部

電子情報工学科
生命環境科学科
知能機械工学科
電気工学科

情報工学部

情報工学科
情報通信工学科
情報システム工学科
システムマネジメント学科

社会環境学部

社会環境学科(文系)

大学院

工学研究科
社会環境学研究科(文系)

福岡工業大学短期大学部

情報メディア学科
ビジネス情報学科

福岡工業大学附属城東高等学校

普通科
電気科
電子情報科

お問い合わせ先

〒811-0295 福岡市東区和白東3丁目30-1

TEL 092-606-0619

福岡工業大学 IRプロジェクト